

あなたの意識です
第二卷

七〇、会員番号1798さんの意識

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

はい、心が苦しくて、苦しくて、私は、本当にどうすることもできませんでした。どれだけの時間を経てきたことか。そして、今世、母に生んでいただきました。今の肉体をいただきました。学びをするには、厳しい環境でした。私は、学びをすることを、長く反対されてきました。

それでも、私はこの学びを離すことができませんでした。心が狂いそうになりました。もちろん、肉体細胞にも、色々な支障を受けました。それでも、私は、やはり、自分のこの心をどうかしたい、私は、生まれ変わりたい、そんな思いで、今、います。

心の中に母を呼んでいる私があります。お母さん、私は、本当に苦しかったです。苦しかった転生を経てきました。あなたに対して、とても凄まじいエネルギーを流してきました。それが、今世、ようやく、自分の中に響いてきます。ああ、私は、間違ってきました。心の底から、あなたに懺悔したいです。そして、私自身にも、懺悔したいです。

私の思いに、この肉は、少し心に向けてくれています。

ほんの少しですが、心を向けてくれています。もっと、もっと、私の思いを聞いてほしいんです。私は、本当に苦しい中を、自分を繋いできた。あなたに私を感じていつてほしい。瞑想をして、私の思いを感じていつてほしい。私は、あなた、あなたです。あなたに他なりません。どうぞ、私の思いを、素直な気持ちで聞いていつてください。

私は、肉体が欲しかった。どうしても、欲しかった。そして、自分を見つめ直したかったです。地獄の奥底に沈んでいた自分に、本当の安らぎ、本当の温もり、本当の喜びを伝えたかったです。

***さん、どうでしょうか。あなたも、もう、うすうす、いい感じていると思います。あなたの中の本当の思いは、ブラツクの思いは、切なる思いは、あなたに訴えています。

肉体がすべてだと生き続けてきたことが間違ってきた、それを、あなた自身、もう少し、しっかりと心に感じていつてください。

厳しい環境かもしれませぬ。ですが、あなたの娘さんも、この学びに繋がっています。どうぞ、ともに歩んでいつてください。

娘さんの意識は、たぶん、あなたの意識が変わるにつれて、変わっていくと思います。ともに学んでいくことを約束してきました。だから、親子の縁を、今世、結んだんです。どうぞ、

互いに互いを見て、そして、心をしっかりとさらけ出していってください。ともに苦しい中を生き続けてきた意識でございます。

はい、どうぞ、田池留吉のほうに、心に向けていってください。

異語。

田池留吉を心で呼んでください。

田池留吉、申し訳ございません。はい、心を、もっと、もっと、しっかりと見つめてまいります。私の中に、喜びがたくさん、たくさん埋もれていることを感じていきます。それを遮っていた私は、とても己に冷たかったです。温もりが私でございました。心を見てまいります。お母さん、ありがとうございます。今世、この肉体をいただき、ありがとうございます。ともに心を見てまいります。苦しい中を生き続けてきた私は、私とともに、心を見てまいります。

七一、会員番号1758さんの意識

***さん、どうぞ、田池留吉のほうに心を向けてみてください。

田池留吉、本当にありがとうございます。出会いをどれだけ楽しみにしてきたことか。己が間違ってきました。苦しい、苦しい、苦しい中を、私も心を繋いできました。母に肉体を持たせてくださいと望みました。願い出ました。その思いが心に響いてきます。どれだけ真つ黒で苦しんできたことか。私の過去はみんなそうでした。母に対して使ってきた心は凄まじい。夫に対して使ってきた心は凄まじい。周りの者をすべて、なぎ倒してきました。それでも、私は、今、自分の中を語る時、喜びを感じます。これだけ凄まじいエネルギーを流してきたのに、私の中は喜びなんです。もっと、もっと、凄まじいエネルギーを語ってくださいと、私の中には言ってきます。そう、瞑想をして、私の中を語ってまいります。

夫に使ってきた心、母に使ってきた心、周りに使ってきた心、すべて、私でございました。田池留吉、心をさらけ出すことは喜びでございました。どれだけ凄まじいエネルギーであつても、自分の中は喜びでした。心が小さくなっていくこともございます。それは、確かにございます。これだけ学んでいるのに、なぜ私の中は、まだまだ真つ黒が出てくるのか、どうして私

の中は、喜びが大きくならないのか、いいえ、そんなことはございませんでした。

真つ黒が喜びなんです。真つ黒が喜び、本当に心で感じます。ありがとうございます。本当にありがとうございます。

異語。

***さん、どうぞ、あなた自身をしっかりと見ていってください。心の中の宇宙にあなたの思いを向けていってください。

はい、私はあなたの意識を感じ、とても嬉しいです。間違ってきたことを、本当に喜んでいるあなたを感じます。心の中に、田池留吉、アルバートを感じる仲間だと、私は認識しております。

どうぞ、心を語っていってください。もっと、心を語っていってください。

私達は、仲間でございました。宇宙に点在するUFO達に思いを向けていってください。どうぞ、二五〇年後に繋いでいく道を、一步、一步、あなたも歩み出していってください。

私は、本当に、そういう仲間を待っています。心の中で通じ合う仲間を待ち続けている私の意識がございます。田池留吉、アルバートを心より呼び合える仲間を、私は、待っています。

残念ながら、そういう仲間は、今ひとつでございます。

これが、私の今の正直な感想なんです。ですが、二五〇年後に心を繋いでいくこと、それを、あなたも、あなた自身の至上命令として、これから、どんどん自分を語っていつてください。

田池留吉、アルバート、私達は、そのもとにひとつです。

七二、会員番号1494さんの意識

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

なかなか、他力の中から抜け出ることはできないけれど、私も、今、自分を見つめ直す時期に来ていることを感じます。心にたくさんの思いを詰め込んできました。欲と二人連れでの学びをやってきたことも事実です。しかし、私の中が、私に伝えてきます。

もっと、心を見てください、もっと、もっと、心を見てくださいと。

あなたは、この学びに繋がったんでしょう、今世、この学びに繋がったんでしょう、私達の苦しみを、もっと、心に感じてみてくださいと。

そのように、私に伝えてくれる私があることを、心に感じています。

***さん、心をもっと開いていってください。あなたは、あなた自身が決めてきた道筋を歩いているとは言えないと思います。

今世のあなたは、もう少し、自分の中を語るというか、自分の中を見ていくというか、そういう道筋にあると、私は感じています。

まだ、体力があるうちに、気力が衰えないうちに、どうぞ、あなたの中を、もっと、しっかりと見ていってください。あなたの中の苦しい意識達、苦しいあなたと会話をしてみてください。

肉のことは、もう程ほどでいいではないですか。あなたの中が、望んでいることを、肉は素直に従っていってください。

そうすれば、あなたが、なぜ今世、肉体を持ってきたのかということ、お母さんに生んでいただいたことを、もう少し、しっかりと心に感じられ、あなたの心の中にその思いが届き、喜びを感じていかれるのではないのでしょうか。

また、あなたの姉妹達も、この学びに繋がっています。今ひとつでございませう。それは、他力の中にある自分達を、しっかりと見ていないからです。凄まじいエネルギーを感じている

ものの、その自分に対して、まだまだとても冷たいです。どうぞ、一人の母親から、肉体をいただいた姉妹達、ともにしつかりと心を見ていってください。

そうでないと、大変もつたいないです。せつかくこの学びに繋がったのに、今のままでは、大変もつたいないと、私は、感じさせていただけます。***さん、どうぞ、まずは、あなたが心を見て、自分の中を、少しでも変えていく方向に進んでいってください。それに続いて、姉妹達も、何らかの刺激を受けると思います。

異語。

***さん、田池留吉のほうに、心に向けてみてください。

田池留吉、申し訳ございません。長く、長く学ばせていただきました。はい、ひとつ、ひとつ、しつかりと心を見てまいります。

自分の心を見てまいります。お母さん…、お母さんを思う時、何とも言えない思いを感じます。あなたの思いを、心に受けながら、私は、あなたを責め裁いてきました。自分の中のエネルギーに、優しい思いを向けることを、あなたは、教えてくれたのに、私は、そのエネル

ギーを、すべて、あなたにぶつけてきました。違っていました。お母さん、あなたに向けて、私は、瞑想をしてまいります。田池留吉が伝えてくれたことを、もう一度、自分の中で見つめ直してまいります。

田池留吉、申し訳ございません。己の偉い私でございました。どれだけあなたから、優しい思いを感じさせていたできてきたことか。

それを今、心に感じます。すべて、私の勉強不足でございました。

あなたに対しての思いを、もう一度見てまいります。心の中に、本当に田池留吉を呼べる日がくるまで、あなたに思いを向けていきます。今世、生まれてきたことを喜びたい、本当に心の底から喜んでみたい。今、素直に私を語らせていただいて、ありがとうございます。

はい、姉妹達とも、仲良くしてまいります。本当の意味で、仲良くしてまいります。心の中に培ってきたエネルギーは同じでございました。

七三、会員番号1336さんの意識

***さん、あなたの今の思いを語ってみてください。

心静かに自分を振り返る時、あまりにも他力の中に生きてきた私を感じます。感じざるを得ません。今、私の中を振り返っています。たくさん時間をいただいています。自分を振り返るには、十分な時間です。心も身体も、肉体的には申し分ございません。こんな時をいただき、私は、自分を振り返ることが、今、幸せだと思っています。

他力の中にある私ですが、しっかりと自分を見つめていきたい、いこうと思っています。

お母さん、お母さん…、私もあなたと同じでございました。凄まじいエネルギーを心に蓄えながら、今世の肉体をあなたからいただきました。

あなたの姿を見て、あなたの言動を通して、私は、本当に自分を見ているようでございました。こんなに整った環境を、あなたは作ってくれたのですね。今、あなたを思う時、お母さん、ありがとうございます、その思いが自然に湧いて出てきます。

間違って、間違って、間違ってきました。心の中に凄まじいエネルギー、マグマのようなエネルギーを抱え持つて、私は、生まれてきました。お母さん、あなたが、それを、私に伝えてくれています。今世、初めてでございます。自分を見ることを教えていただきました。

母に使ってきた思い、過去からずっと、ずっと、私の中に蓄えられています。今世、初めて、その心を少しずつ紐解いている私でございます。

***さん、心を田池留吉のほうに向けてみてください。

異語。

田池留吉、私は、はい、もう自分で分かっています。自分の中のエネルギーのすごいことを、自分で感じています。あとは、本当に自分に素直になることだと思います。私の中には過去から培ってきた己偉い心、支配する心、その思いがとても強いを感じています。瞬時に出る心は、そのエネルギーです。しかし、私は、そのエネルギーを今一度、足を止めて、見つめてみるのが、今世、ようやく、できるようになりました。突っ走ってきたエネルギーを少し緩めて、私の中で、見てみるということを、私は教えていただきました。

田池留吉、お母さん、たくさんの優しさをありがとうございます。たくさんの愛をありがとうございます。私は、私に優しさを伝えていきます。私が私に出すメッセージは、優しい思いで、自分を見つめていくことです。ただただ、優しい思いで自分を見つめていく、それが、私が私に対するメッセージだと思っています。

異語。

今ある中で、心を見つめられる、心を見ていける、自分を振り返っていける、そのような時間を自分に与えてきた私の思いを感じます。

私も、自分を変えていこうと思ったから、今世、生まれてきたし、色々な出来事を通してきました。心を落とし、心を汚し、闇を広げてきたかもしれないけれど、しかし、今、私は、そんな自分を愛しい目で見つめていこうとしています。自分が自分に与えたメッセージを心で感じ、はい、私も、自分を繋いでまいります。

七四、会員番号1820さんの意識

****さん、あなたの今を語ってみてください。

他力の中を歩いてきた私にとって、この学びは、大変難しいと感じています。自分のどこがどのように間違ってきたのか、私も、母の反省と他力の反省を繰り返しながら、学んできた

つもりです。あまりにも多くのものを、心に入れ過ぎてきた自分の欲を振り返っています。

心の中の寂しさ、苦しさを思う時、私は、本当に自分に優しくなかったです。そう、今、このように、自分を語ることができて、嬉しいのです。寂しかった、苦しかった、そうやって自分の心を素直に言える私がいる、それがとても嬉しいのです。

頑張ってきました。自分こそ素晴らしい、我は正しいという思いで、私は、頑張ってきました。そんな自分が何とも哀しい、今はそう思えます。頑張ることなど要らなかつた。自分に優しく、ただただ優しく自分を見つめていくだけでよかつたんです。

私は、あまりにも、肉のことに突っ走っていました。これだけ正しいのに、これだけ私は頑張ってきたのに、これだけ私はしつかりとやってきたのにと、いつも、いつも、その見返りを求めてきた私が、間違っていたんです。

ああ、本当に、お粗末な自分を感じています。今、そのことを少し感じ、そして、語れることが、とても嬉しいのです。

異語。

***さん、田池留吉に心を向けてみてください。

田池留吉、お前を殺してやると何度も、何度も歯向かってきたエネルギーを感じます。本当に申し訳ございません。心が荒れ狂っていた、そんな私を何度も、何度も、セミナー会場で確認させていただき、本当に幸せ者です。田池留吉に歯向かうエネルギー、はい、しっかりと見つめてまいります。他力の神々に向けてきたエネルギーが、肉を動かしていたことを、私は、ようやく、少しずつ感じ始めています。

心の中に田池留吉、お母さんを呼ぶ、それがどれだけ喜びであったのか、瞑想を繰り返し、私は、心に感じさせていただいています。

まだまだ、道遠しの私ですが、それでも、今世生まれてきたから、そして、この学びに繋がったから、私の中は、少しずつ変わっています。

他力の中に埋もれていた自分を確認できた、確認していく過程にあった、それがとても嬉しいです。

己の欲深さを見てまいります。自分は限りなく続いていくんですね。私の学びは、限りなく続いていくんですね。そう思うと、何だか、とても幸せな自分を感じます。

異語。

七五、会員番号1415さんの意識

***さん、あなたを語ってみてください。

お母さん、心の中の苦しさをお母さんに聞いてほしかった。お母さんに、私の苦しさを知ってほしかった。心が寂しかった。心が苦しかった。お母さんに、私を知ってほしかった。

そんな思いを母に求めてきました。心の中に求めてきた母は、私に伝えてくれました。

あなたは、苦しいんですか。あなたは、苦しくないはず。あなたは、嬉しい、嬉しいって、言っているんですよ。だから、私も、嬉しいって、あなたを生みました。

そのように母は伝えてくれました。

しかし、私は、その母の思いを、みんな、みんな捨ててきました。申し訳ございません。苦しかった私は、自分を知らずに、ずっと存在してきたのですね。自分を見失って存在してきた私を、今、感じています。

***さん、田池留吉のほうに、あなたの思いを向けてみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉、心に歯向かうエネルギーを感じてきました。これが私の過去からの思いでございます。温もりを捨て去った私でした。

心の中に田池留吉を呼びなさい、今、その思いを素直に聞ける私があります。そして、その思いを聞いて、心の中に、田池留吉と素直に呼べる私と、素直に呼べない私とがあることも感じます。

どちらも私の中にあることを、感じます。田池留吉、はい、私は、たくさんの私を抱えています。素直に呼べる私を、心の中に広げていきたい、今、そう思います。

異語。

***さん、心を小さくするのもあなたです。そして、心を大きくするのもあなたです。田池留吉のほうに心を向けることを、しっかりとやっていきましょう。心から田池留吉と呼べ

るあなたであれば、何も恐れることはありません。苦しかった自分も、全部、その中に包んでやればいいことが分かります。

ともに歩んでいってください。心の中の温もりは、あなた自身です。

お母さんに教えていただいたように、本当のあなたは、嬉しい、嬉しいって、言っていたのでした。

七六、会員番号1396さんの意識

***さん、思いを語ってみてください。

長い間、学ばせていただき、私は、自分の間違いを見てきました。どれだけ何を語っても、私は間違ってきました。真つ黒な私がここにいます。これが、私の現実です。たくさん学びの教材を、自分の周りに配置しながら、それでも、私は、自分の間違いになかなか気付くことができませんでした。間違ってきました、私は真つ黒ですと、たくさん反省をしてきました。涙も流してきました。ああでも、それが、本当の自分との出会いに繋がるほどの真摯さをもつ

てやってきたのかと言えば、その点を突かれれば、はいやってきましたとは言えません。

ですが、この学びに触れさせていただきました。田池留吉との出会い、肉との出会いを持たせていただきました。私は、今、この年になって、こんな幸せな自分はなかったことを、しみじみ感じています。本当に、今世の私を除いては、こんな幸せな私は、全く存在し得なかったことを感じます。

真つ黒が、何度も、何度も、肉を持ってきたけれど、今世の肉は、その点において、大変幸せです。

心を少しでも、解き放してまいります。すべては、己が招いてきた地獄でした。己の偉さから、自らを地獄に陥れてきたことを、感じていきます。今世を足がかりに、自分の中を、しっかりと見つめてまいります。

***さん、田池留吉を思ってみてください。

異語。

田池留吉、申し訳ございません。田池留吉を甘く、甘くとらえてきました。軽くあしらっ

てきました。我こそ素晴らしい神なるぞ、その思いの中から、田池留吉の世界を窺っていたことを、今、感じます。ああこれが、私でございました。

田池留吉、あなたは、真つ黒な私に真実を伝えるために、この三次元に降りてきたのですね。私は、今、そのように感じます。

田池留吉の肉を通して伝えてくれる意識の世界を、心で知れることは、大変難しい。本当に難しいことを、私は、今、感じます。

学ばせていただいたのは、肉の強さでございました。肉の私を通して、真実の世界を学ぶべきですが、肉の私を通して、それを遮ってきた、今、私は、そう思います。

異語。

七七、会員番号1180さんの意識

***さん、あなたは、今、幸せでしょうか。

はい、お母さんに生んでいただいたことを、今、少しずつ振り返っています。こんなに間違ってきたのに、私は、母から、肉体をいただき、今に至っています。自分の間違いに気付いていくことは、なかなか難しいですが、それでも、私は、自分を振り返っています。そう、自分の苦しい中を見えています。

幸せでしょうか。そうですね、以前は、幸せという意味を、全く違つてとらえてきたから、私は、幸せだったと思いますが、肉で幸せだったと思いますが、実は、そうではなかったことを感じます。自分を振り返り、自分の心の中を感じれば感じるほど、その当時、幸せとは程遠い自分だったことが、今なら分かります。

それを思う時、私は今、自分を振り返ることができ、自分の中の思いを、心に、少しずつですが、感じる事ができる今が、幸せだと思えます。

何が、どのように変わっているのかは、私には、分かりません。

他力に向けてきたエネルギーの凄まじさも、あまり変わっていないと思います。しかし、その中で、自らを苦しめてきたことを、ようやく、私は、自分に教えていたんだなあ、それが、私のこれまでの転生だったんだなあ、少し、その方向に心向ける時、何とも言えない喜びを感じます。

自分と自分の中で、学びを進めていく大切さを、心に感じています。

私の中で、苦しんできたたくさんの私を、今、少しでも、自分の中で語れること、その私に思いを向けられること、それが、幸せだと、私は、感じています。

異語。

***さん、田池留吉を思ってみてください。

田池留吉、田池留吉、お母さん。はい、お母さんを心に思います。田池留吉を思えば、お母さんが出てきます。あれだけ嫌って憎んできた母だったのに、私がすべて間違っていたんだなあと思った時、その嫌って憎んできた私が、何となく分かります。私が私を嫌ってきた冷たさを心に感じる時、本当に申し訳ないと思います。田池留吉、あなたは、このことを、私に伝えてくれていました。今世、あなたと出会い、学びと出会い、このように自分を語れること、私は、幸せでございます。

異語。

七八、会員番号1207さんの意識

***さん、あなたのエネルギーを心に感じてどうでしょうか。今、あなたの思いを聞かせてください。

どれだけ反省と瞑想を繰り返して、心から田池留吉、お母さんを思えども、私の中は、あまり変わっていないことを感じます、反省をしてきました。心を見てきました。本当に、私は、それを繰り返ししてきました。瞑想も、続けてきました。続けています。それでも、なかなか自分の中が変わらないことを思うと、私は、過去から本当にどれだけの思いを、心に溜め込んできたのか、それも、真つ黒な、真つ黒なエネルギーを良しとしてきたのか、今、それが、つくづくと分かります。

母に使ってきた思いは、とても凄まじいです。母などくそ食らえでした。すべては、我一番でした。我が神でございました。

その思いは、今も、まだまだ続いています。反省と瞑想を繰り返す中で、我一番なり、我は神なりの思いを振り返ってきたつもりです。

しかし、田池留吉の目を見て、自分を語る時、やはり、私の中に、我は一番なり、我は神なり、我の言うことを聞け、我に従え、我にひれ伏せ、そのように出てきます。これが、私の現実です。今、語ることが喜びです。現実は、現実として、しっかりと、私の中で受け止めて、さて、これから、どのように自分の歩みを進めていくのか、それが問題ですが、私は、私の中で、しっかりとやっつけていこうと、今、思っています。

異語。

***さん、田池留吉、静かに、静かに、田池留吉を、心に呼んでみてください。

異語。

はい、静かに、静かに、本当に静かに思いを向ける時、田池留吉の目は、私をしっかりと厳しく見ています。真つ直ぐに見ています。私は、この目を恐れてきました。この目を恐れながら、我一番の世界を広げてきました。他力の中にあつた私は、所詮、そんなちっぽけな世界の主でございました。今、そのことを感じます。お母さん、お母さん、こんな私を生んでくれ

たあなたに対して、心からの懺悔がまだまだできかねます。

ひとつ、ひとつ、やっつていこうと思いますが、母の意識の深さ、母の意識の広さ、この心で感じるには、あと何度転生をすればいいのか、私は分かりません。しかし、心を見ることを、自分に伝えてくれた今世を第一歩とできるよう、この肉体があるまで、しっかりと自分を見つめてまいります。

異語。

***さん、自分を救いゆくのは、限らない優しさです。何も要らないんです。過去からのあなたは、すべてブラックです。何も良いところはありませんでした。優しいあなたを感じれば、それが、はつきりと分かります。優しさだけ、あなたの中のたくさんの意識達は、優しい思いに飢えています。言葉は要りません。母の温もり、母の優しさ、ただそれを待つている意識達を感じていてください。

七九、会員番号1338さんの意識

***さん、あなたの心を語ってみてください。

心の中に何も無い私を感じる時、幸せだと思えます。しかし、それは、一瞬です。一瞬のうちには、私の心の中は、変わっていきます。主人の言動により、私の心の中は変わっていきます。ああ、これが私の他力の思いだ、そう、私は感じています。

主人の話す言葉を聞いたり、姿を見たりして、私の中に、まだまだ心を揺さぶるものがございます。私は、その自分の中の自分を揺さぶる思いに、まだまだ優しい思いを向けることができます。

何も無い時は、穏やかな日々を過ごしていますが、ひとたび、私の中に、揺らぎが起きる時、私は、自分の心の底の底のほうから、エネルギーがムクムクと湧いて出てくるのを感じます。このムクムクと湧いて出てくるマグマのようなエネルギーを、肉は、まだはつきりと自覚しておりません。

私の中は、すごいエネルギーの塊です。こうやって、私は、自分を繋いできたんですね。しかし、地獄の奥底から生まれ出てきた自分を、まだ、しっかりと感じていない、これが私の本当のところだと思います。

その揺さぶりが、これからの私の転生の中において起こってくる、私の計画でございませう。そうでないと、私の意識の目覚めは難しい、それほど他力のエネルギーを心に蓄えてきた私でございました。

心から、「田池留吉、お母さん、ありがとう」、「本当に私は、肉をいただき、自分を見つめることが嬉しいです」、そう心の底から叫べる日が来るまで、私は、自分を見つめてまいります。今世も、たくさんの教材を、自分に用意してきました。こうして、学びに繋がっている私があります。今世は、もちろん、私にとって、大切な時間と空間です。心をしっかりと見つめ、私は、自分を繋いでいきます。

自分の中が、どれだけ荒れ狂ってきたか、どれだけ自分に冷たかったか、アマテラスのエネルギーの中で、アマテラスにひれ伏してきた自分を見つめていきたい、今、そのように感じています。

異語。

***さん、どうぞ、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、お前を殺してやると心から叫んでいる私があります。私は、お前を殺してやると叫んできませんでした。何度転生を繰り返しても、地獄の奥底から出ることができなかった私は、中が、一斉に、田池留吉目掛けて、刃を向けている、そんな波動を、ずっと、ずっと流し続けてきました。

そんな私が、今世、このように肉体をいただきました。母に生んでいただきました。そして、この学びに繋がりました。すごいエネルギーです。私は、そのエネルギーを、まだ自分ですっかりと見つめることができないけれど、今、語らせていただき、自分の奥にあるものに、何かが届いているような、何か、ほんの少しですが、小さな、小さな穴が開いたような気がします。これから、その小さな穴が、私の中で、大きくなっていくだろうと思います。それが、これらの私の転生でございます。二五〇年後へと、私を繋いでいくために、転生をしてまいります。お母さん、今世の肉体をありがとう、素直に、少しだけ、今、言える私があります。あなたの意識を踏みつけにしてきた過去からの私でございました。

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

お母さん、苦しかった自分を見つめていくことが、なかなかできません。少し、母の反省をしようと思えば、この心の中から、私が邪魔するのを感じます。幸せになる方法は、もっと他にある。そんな思いが、心の中から出てきます。

母の反省をすること、母に使った思いを見ることが、自分を振り返ること、瞑想をして、淡々と田池留吉に心を向けること、それ以外に、私が幸せになる方法があるのかと、自分に問います。私の中は語ります。

「お前、自分の中を、もっと見てみる。お前は、パワーを求めてきたはずだ。幸せになるために、パワーを求めてきた心を、もっと見つめる。その中に、どれだけの欲の思いが秘められているか。ただ単にパワーをくれただけではない。欲、欲の思いとは、お前知っているか。自分自身を地獄に突き落とす、本当にすごいエネルギーだ。

人間、生まれてくれば、欲を持たずには生きていけない。そうやって、お前は、ずっと、ずっと、やってきた。お前の人生、それで幸せになったのか。こちらから聞きたい。お前は、幸せにな

ったのか。

自分の中の苦しい自分に、幸せを、本当の喜びを、本当の温もりを、本当の安らぎを伝えるために、お前は、生まれてきたはずだ。そのために、肉体というものを、今、そこに持っているはずだ。どんな肉体でもいいと、お前は言った。だから、私に肉体をくださいとお前は言った。その思いを自分の中で思い出してくれ。そうやって、ずっと、叫び続けてきた思いがあることを、知ってくれ。」

異語。

***さん、自分自身、語られたように、あなたの中には、欲の思いが、しっかりとあります。欲の思いを見つめていくこと、それをしていってください。欲がなければ、人間生きてはいけない、その思いを見つめていってください。心の中の苦しさを、あなた自身、もう少し、しっかりと感じていってください。

***さん、お母さんのほうに思いを向けてみてください。

異語。

ああ、私は、母を見下してきました。母親などに、私の思いが分かってたまるものか。母親なんかには、私を分かってたまるものか。私は、素晴らしい。母に私の素晴らしさが分かるはずがない。そうやって、母を見下してきた私を感じます。

お母さん、お母さんが、一番大切なことを、私に伝えてくれました。その母を足蹴にしてきた自分を感じます。

何をどう言っても、母は、正しかった。母の言うことは正しかった。

「あなたは、自分の心を見てください。私をどのように思ってきたか、どのような思いを広げてきたか。私に対して、どんなエネルギーを使ってきたか。それが、あなた自身です。あなたを見ていくことを、私は、あなたにお願いしています。」

これが、母の思いでした。そんな母の思いを私は、ないがしろにしてまいりました。

異語。

***さん、あなたが幸せになるために、いいえ、あなたは幸せであると知っていくためには、あなたを見つめていく以外にはありません。

これしか方法はないのです。苦しい転生が待っていると思いますが、あなたは、あなたを見つめていくために、その転生を用意してきました。その時間と空間を用意してきました。あなたを見つめていくことを今世、しっかりと、自分の中に教えていってください。

自分を自分で見つめていく、自分を自分で救っていく、それがあなたにできることです。それ以外に、できることはありません。肉のあなたができることは、所詮、ちっぽけなものではありません。

八一、会員番号1809さんの意識

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

学びを知って、私の人生は変わりました。

たくさんの方をやってきました。他力のエネルギーを吸い寄せてきました。そして、私は、我こそ一番なりの世界を広げました。中でも、私の中のアマテラス、アマテラスの思いをこの心から発する時、私は、自分を本当に大きく、大きく、感じてきました。それが、私の心

の中に巢食っている暗黒の世界です。私の中のアマテラスは、まだまだ、苦しい中にあります。私のこの肉を通して、その暗黒の世界に少しでも、温もりをという思いでいます。

たくさんのエネルギーを詰め込んできたこの心に、今、間違ってきました、そんな思いを感じます。「あなたの思いを語ってみてください」。私は、自分に対して、こんな優しい思いを向けたことがございません。

いつも、上から、上から、自分を見ていたように思います。これでは、私の中の苦しい意識達に、思いが届くはずがない、ああ、今、そのように感じます。

違っていました。自分の中を優しい思いで、振り返るということをしてまいります。私は、母に使ってきた心を見て、自分に対して凄まじいエネルギーを流していたことを、しっかりと見てまいります。

異語。

***さん、そうですね。あなたがあなたを見る時、あなたがあなたを感じる時、とても厳しい波動を見て、感じてこられたと思います。

それがアマテラスに心酔していったあなたの心癖です。アマテラスは、とても冷たいんです。

アマテラスは、上から、すべてを牛耳るエネルギーであり、とても冷たい、氷のような心なのです。しかし、そのアマテラスでさえも、今、あなたの中で、確かに変わろうとしています。

今世、暗黒の宇宙の中に、意識の流れが、明らかになってきたいるからです。

どうぞ、あなたもご自分の中をしっかりと見ていってください。

アマテラスの心に、本当の安らぎを伝えてください。

「アマテラスよ、もういいんですよ。小さな、小さな世界から出てきなさい」。そのように、あなた自身に伝えていってください。

異語。

***さん、田池留吉に心に向けてみてください。

異語。

田池留吉、申し訳ございません。心を見てきたつもりですが、田池留吉の指し示す方向に、心がなかなか合わない私でございました。

自分に優しくなっていく、本当に自分に優しくなっていく道を、田池留吉の肉を通して、そして、この私の肉を通して、学んできた時間、年月を重ねてきました。これからの中で、しっかりと自分を見つめながら、そこへ戻していきます。

田池留吉の目を、まだまだ真つ直ぐに見ることができない私ですが、ゼロ歳の時の私を思い浮かべながら、素直な思いで、何のわだかまりもない、何の欲もない、そんな思いで、あなたの目を真つ直ぐに見ていきたいと、今、思います。

瞑想をしてまいります。心を田池留吉にしっかりと向けることができるように、瞑想をしてまいります。

八二、会員番号1109さんの意識

*****さん、用意はいいでしょうか。ともに心を向けて学んでまいります。では、あなたの思いを、まず、語ってみてください。

お母さん、私を生んでくださってありがとう、その思いが、どれほどの思いなのか、私は、

ようやく自分の中を見ていくことによって、心に感じています。

母の反省をしてきました。肉の母に使ってきた思いを見ることにより、私の中のエネルギーを感じてきました。どんなにすごいエネルギーだったのか、どんなにすごいエネルギーを蓄えてきたのか、感じれば感じるほど、自分を語れば語るほど、どうしようもない私でした。そんな、本当に腐り切っていた私に、今世もまた、あなたは、肉体を持たせてくれました。私の思いを聞いてくれました。これが、どれだけの愛なのか、今、心を向けることにより、私の中に感じます。

反省も瞑想も浅いものでした。今、私を感じる時、私の反省も瞑想も、本当に浅いものだったと思います。はい、しみじみそう感じます。

異語。

***さん、どうぞ、そのまま、田池留吉のほうに心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、心の中に真っ黒な、真っ黒なエネルギーを感じます。ああこれが、私が過去から培ってきた世界でした。他力の世界でした。その中で、どれだけのものを求めてきたことか。ああ、欲の思いが、ずっと、ずっと連なっています。

心を田池留吉に向けると、私を感じることができます。真っ黒な、真っ黒な私を感じます。ああでも、それがとても嬉しいです。田池留吉、ありがとう、本当の自分が伝えてくれていた私への思い、私は、しっかりと自分を見つめてまいります。自分が自分に伝えてくれていた思いを、しっかりと見つめてまいります。真っ黒だから生まれてきた、真っ黒だから生まれてくることができました、今、心に感じます。

異語。

***さん、どうぞ、あなたも、ご自身の切なる思いに触れていってください。瞑想をして、あなた自身を、どんどん語ってってください。切なる思いが、あなたの中で疼いています。「心を見てください。心を向けてください。優しい思いを向けてください。間違ってきました。お母さん、ごめんなさい。私は、自分に、本当のことを伝えたいんです。

自分の中に、本当の温もりがあったことを、私の中に、本当の喜びがあったことを、どう

しても、どうしても、心に広げていきたい、そんな思いから、私は、あなたに生んでくださいとお願いました。母に対する思いは、そんな切なる思いでございました。

どうしようもなく、真っ黒だから、だからこそ、母に、お願いました。どうしても、どうしても、私は私を知りたい、そう思ったから、私は、今世、母から肉体をいただきました。どうぞ、私の思いを心で、もっと、もっと感じていってください。」

八三、会員番号1266さんの意識

***さん、あなたの心を語ってみてください。

母を思う時、自分の中の苦しさを感じるけれども、母に対して、まだまだ素直になれない私を感じます。心の中のエネルギーが、今か、今かと、飛び出していくのを、まだまだこの肉で抑えているような気がします。

心を見ることをやってきました。ああでも、私は自分の意識の世界というものを、心でしっかりと感じていないと思います。

心に響いてくる思いがあります。だけど、心に響いてくる思いを、素直に自分の中に広げていくことができないというか、ああそうですね、私は、やはり、自分の頭を信じるほうが強いのかも知れません。

きちんと自分の中で納得しないものは、受け入れることができない、そんな私の心癖を感じます。

1+2=3、これが意識の世界の法則なんですね。私は、この法則が大好きです。私は、僅かの狂いもないそんな世界を求めてきました。だけど、それは、意識の世界で言うところのそれとは、違っていました。

だから、私の場合、自分に対して、あまりゆとりがないというか、やっぱり、自分に冷たいって、今、感じます。

お母さんの温もりを、本当に、心に感じていけば、そんな冷たい自分が、少しずつ溶けていくのかなあ、今、そのように思います。

心に感じるたくさんの私に、もう少し思いを向けていきたい、優しい思いで包んでいきたい、今、そのように感じます。

異語。

***さん、心を田池留吉に向けてみてください。

田池留吉、心に蓄えてきたエネルギーが、田池留吉に向けて噴き出してくる、そう、これが私でした。頭など何の役にも立たないと、どこかに書いてあったけれど、本当にそうでした。心の中に沸き起こるエネルギーを、どうしよもないエネルギーを、私は、肉の私というもので、何とかしようとしてきました。やはり、頭で、解き明かそうとしてきたことを感じます。そうではなかった。私は、そんなところで理解できるものではなかった。それを、今、感じます。田池留吉に心を向けていくことの大切さを、心に感じます。

異語。

***さん、あなたのその頭というか、頭で解釈する心癖というか、そういうものを外していった時、あなたの中に、おそらく私が申している宇宙、その意識の世界を感じていくことができるかと思えます。

あなたの宇宙を、今、私は感じています。凄まじいエネルギーで、あなたも、自分を繋い

できました。宇宙に向ける瞑想をと、私は、あなたに伝えたいけれども、まだ、少し時期尚早かなと思います。ああでも、しっかりと、母を思い、田池留吉を思う瞑想をしていってください。心の中に、宇宙を本当に呼べる喜びを、あなたも心で知ってほしいのです。宇宙に、UFOに、そう、UFOに心に向けていってほしい。どれだけのUFO達が、心に向けてくれることを待っているか、あなたに知っていただきたいと、私は、思います。

異語をどうぞ、あなたの口から出していってください。異語で、どうぞ、あなたの思いを語ってってください。異語…。異語…。

そして、母なる宇宙とともに、あの本を、もう一度、読んでみてください。そうして、また、瞑想をします。心にどんどん宇宙が響いてくると思います。それからです、あなたの本当のお勉強は、それからだと思います。

八四、会員番号1502さんの意識

***さん、あなたの心を語ってみてください。

他力のエネルギーがとても強いです。他力をやってきました。他力の中に沈んでいる私を感じます。

他力に沈んできた私が、このようにして、真実の道に繋がる学びを知ったことを喜んでいきます。しかし、喜ぶといつても、私には、まだまだ難しいです。今、自分の心を語る時、本当に私は、他力の中に沈んできた私だったなあと、しみじみそう感じます。

他力一色でした。そのエネルギーの強さ、そのエネルギーの凄まじさ、今、私は、日常の中で感じていきます。

この中から、私は、今の肉体をいただきました。母親に使ってきた心を感じる時、それは、一も二もなく、温もりに齒向かってきた私の凄まじいエネルギーを感じるだけです。

自分を見つめていこうとする思いと、自分に反逆していく思いとが、交錯している、そんな中に私は存在しています。

***さん、田池留吉…と心で呼ぶことができますか。

異語。

田池留吉、心で呼ぶことができません。肉は、心を向けよう、向けようとしています。しかし、私の中は、とても、苦しいです。田池留吉に心を向けると、とても苦しい自分を感じ、もう心を向けたくない、向けたくない、目を逸らす私があります。

自分の暗闇の世界を心を感じる事が、とても恐怖です。あまりにもすごいエネルギーで、何とも言葉が出てきません。本当に、今、心に感じている私の世界からすれば、私がやってきたつもりの方省も瞑想も、ほんの微々たるものだった、そう感じます。自分を殆ど知らないと言ってもいいような世界を、私は、心に感じています。

「これがあなたの世界ですよ。それでもまだほんの一部分なんですよ。この奥には、もっと、もっと、暗黒の世界が広がっているんですよ」。そのように、田池留吉が伝えてくれるような気がします。

異語。

***さん、あなたに限らず、現状は、大変厳しいと思います。意識の世界は、そう簡単に変わっていくはずはないんです。しかし、そのことを、今世、肉体を持って知ったということだけでも、大きな成果ではないでしょうか。あなたは、そのように思えますか。

あなたの中にも、底知れぬ他力のエネルギーが渦巻いていて、やはり、この学びも、田池留吉も、本当に甘くとらえているような気がします。心の中に培ってきた世界を殆ど知らない、そんなあなたの現実を、これからの転生の中で知っていただく。

どんなに厳しくて険しい道のりでも、あなたは、あなたを捨てることはできません。見限ることもできません。いずれ、あなたは、あなたをしつかりと受け止めていく時がやって来ます。あなたの中で、他力の世界が音を立てて崩れていく時を、喜びで迎えていただく。そうなるかどうかは、あなた次第です。どうぞ、今世の時間を大切になさってください。

八五、会員番号1531さんの意識

***さん、あなたの心を語ってみてください。

心の中に私を感じる時、お母さん、ありがとうございます、心の底からまだまだ、そう言えないです。心の苦しさを感じる時、お母さんに向けて、ありがとうございます。こんな苦しい私を母が生んでくれた、私に肉体をくれた、私は、頭では、そう理解しています。しかし、

私の心の中は、まだまだ、母に対して、恨み辛みの思いが、たくさん、たくさんあります。

生んでくれてありがとうよりも、なぜ私を生んだ、私は、生まれてきたくはなかった、そんな思いのほうが、断然強いのが感じます。

こんな苦しい私は、もう見たくない。なぜ、こんな苦しいところに生まれてきたのか。学びをすればするほど、私の中は、行き詰っていくようなそんな思いさえ感じます。

私の心の見方が間違っているのだと思います。

自分の作ってきた暗い、暗い世界の中で、必死でそこから這い出し、抜け出していこうとする私に対して、とても冷たいのを感じます。

苦しいから生まれてきた、苦しいから生まれてきたんだ。そう、私に伝えてくるたくさんの意識達に、私は、しっかりと、そうだね、そうだったねって言えない私を感じ、それが、今、とても辛いです。

異語。

***さん、田池留吉のほうに、心を向けてください。田池留吉とは、あなたの中の本当のあなたです。あなたの中の温もり、優しさ、広がる心です。どうぞ、そのほうに心を向け

てみてください。

異語。

はい、信じられなかった、信じられなかった。なぜ、私は、温もりなのか、なぜ、私は、安らぎなのか。なぜ、私が、愛なのか。信じられなかった。こんなに苦しい私なのに、こんなに真つ暗な私なのに、その思いの繰り返しでございました。

田池留吉、学びに繋がっても、私は、その中で苦しみ続けてきました。

嬉しいって涙を流す時もありました。しかし、心の底から、喜びが湧いて出てこない。これが本当のところでした。

今、田池留吉に心向けると、私のすべてが間違ってきたと、何だか、力が抜けていくような気がします。

異語。

***さん、あなたのすべてを賭けて、あなた自身を変えていくことを、あなたは、誓

ってきました。その誓いの重さを、あなた自身、まだ心に感じていません。肉体を持ってきたことの大切さ、肉体を持ってきたことの喜び、あなたも、どうぞ、これから、自分の中をしつかりと見て、そのことを感じてください。

凄まじい中に自分を沈めてきたその事実だけが、これからのあなたの中で、伝えてくれるでしょう。

「もう、苦しむのは、やめましょう。私達は喜びです。お母さんの許に帰る、それが私達の切なる思いです。」

八六、会員番号1532さんの意識

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

心に感じる思いを信じていきなさいと、私の中から伝えてくれる私があります。この私を、まだ、私自身、信じられないのは、肉の思いが強いからです。心の中に自分自身が語っている思いを、しっかりと信じて、私は、前を向いて歩いていこうとしています。それを引っ張るの

は、肉の私です。

肉の思いは、確かに、とても強いです。その思いが、真実の道へ行こうとしている私を、押し留めている、今の私の状況です。

心に感じるのですが、たくさんあります。この学びに出会って、本当によかったと、苦しかった今世の私は頷いています。納得しています。私の中の思いがそうさせたんだと、私は、自分の中で納得しています。この思いに沿っていけばいいんですね。これからも、厳しい転生が待っていると思います。それは、他ならぬ私が私に目覚めたいからです。本当の私が、私を待っていてくれる、その思いを信じて、これからもやっていきます。

心をお母さんに向け、自分の中を吐き出していくこと、今世、肉を持たせていただき、それができることが幸せです。

間違った道を歩いてきた、他力の道を歩いてきた私に、苦しい私が伝えている。それを、私は、信じてやっていきます。学びに集った時期は遅くとも、私は、私の中を信じてやっていきます。これが、私の道なんですね。今、自分を語り、納得しています。

***さん、田池留吉、アルバートに心に向けてみてください。

異語。

アルバート、アルバート、アルバート。異語。

私の心は、アルバートを呼んでいます。他力のエネルギーの中に沈んできた私だけど、今、アルバートに心向けよう、真実の方向に自分を向けていこう、必死になって、そうやって、心向けようとしている私が、とても愛しいです。

お母さん、ありがとうございます。肉の私は愚かですね。欲の思いがいっぱいです。でも、私は、今、田池留吉に心向け、アルバートに心向け、そんな私を、愛しいと感じています。お母さん、この学びに繋がって私は喜んでいきます。今度こそ、正しい道筋を歩んでいきなさい、そうやって、あなたは私に肉体をくれ、そして、この学びに繋がりました。ありがとうございます。心を見てまいります。他力の中で苦しんできた、真つ黒な、真つ黒な私の世界を、見てまいります。喜びの思いで、見つめてまいります。

八七、会員番号1170さんの意識

***さん、あなたの今を語ってみてください。

他力信仰に使ってきた心を掘り下げて、見ることをやってきたつもりです。他力に使ってきた心を見てきたつもりです。間違った道を歩いてきたことを心に感じ、私は、自分の心を見ってきました。

.....

今、あなたの今を語ってくださいということです。私は、心を見てきました、他力に使った心を見てきましたと、自分を語りました。しかし、私の中から、まだまだその見方が甘い、甘い、甘いと出てきます。

確かに、以前とは違っています。自分の中が変わってきていると感じます。ですが、あなたの今を語りなさいと促された時、私の中は、反応しました。他力のエネルギーのすごさに自分自身が驚いている状態です。これが、私の今です。

他力に使った心を、掘り下げて、見ることの難しさを感じています。母に使った心を見ることの難しさを感じています。どちらの反省をする時も、私は、やはり、自分の偉さ、そびえ立つ自分を、心に感じるのです。

中が言ってきます。

「心に求めてきた他力の神々への思いを、もっと、見ていってください。どれだけのエネルギーで、他力の神々を吸い寄せてきたことか。自分の苦しさを、もっと、もっと見ていってください。」

私の中が、そのように伝えてきます。

異語。

***さん、田池留吉のほうに心を向けてみてください。

異語。

田池留吉：、心の中に田池留吉を呼ぶとき、私は自分の世界を感じます。ああこれが、私が培ってきた他力の世界です。他力信仰をしてきた時の私の凄まじいエネルギーを感じます。心を感じる世界です。私の肉、頭では、計り知れない世界です。ああ、このことを言っていたんですね。私の中は知っていました。このことを言っていた。

あなたの中には、凄まじいエネルギーがありますよ。私達は、その中に、まだまだ沈んだ

状態です。もっと、もっと、心を向けていってください。そんな思いを感じます。

はい、己が偉かったです。心を見てきたつもりです。少しは変わってきた自分だと思ってきました。認めてくださいという思いはないにしても、私は、少し自分が変わってきたことに、それで満足していたのかもしれない。そんなところではありませんでした。私の中には、もっと、もっと深いところで苦しんでいる意識達が、たくさんあります。はい、心を向けていきます。

心を繋いでいくために、今世の肉体をいただきました。私は、そうなんです、はい、感じます。自分を繋ぐために、今世生まれてきて、このように学びに繋がったのです。このことの大切さを、心に、今、感じています。ありがとうございます。お母さん、ありがとうございます。

八八、会員番号1242さんの意識

***さん、心を語ってみてください。

己の偉い私を、繰り返し見てまいりました。そびえ立つ自分の意識の世界を感じてきました。田池留吉の世界をバカにしてきた私を見てきました。私が私をバカにしてきた。そうでした。田池留吉をバカにするということは、私自身をバカにすることでした。そういうことを心で感じていきます。それでも、なお、この肉をそびえ立たそうとする思い、私の中に、強く残っています。

その中で、私は、ふっと優しい私の思いを感じるときがあります。母の思いというのでしょうか。ふうっと優しいものを感じるんです。ああ、自分の中にも、こんな優しい安らいだ思いがあつたんだ、それを感じると、私は、嬉しいって自然に思います。そうなんです。これが私の本来の思いだったんですね。

そびえ立つてきた自分の世界を、今世も随分と広げてきました。真つ黒な波動を流し続けてきた自分です。それでも、ふっと思うと、優しい思いを感じることができる、そんな中にあるんだ、今、私は、そういうことを感じていきます。

***さん、田池留吉のほうに心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、お母さん…、田池留吉、お母さん…、心の中に母を呼ぶ私の思いを信じていきます。どれだけ他力をしてきても、どれだけ神を求めても、私の中は苦しかった。自分を苦しみの淵から救い出すことはできなかった。もうそろそろそういうことに気付いてもいいんですね。心の中に田池留吉に歯向かうエネルギーも、田池留吉を見下すエネルギーも、しっかりとまだ抱えているけれど、それもすべて、自分を救ってほしいからでした。だから、そんな中にある自分をしっかりと見なさいと、自分が自分に言っていることを感じます。

私の中には、何もなかった。私以外に何もなかった。

田池留吉、今、あなたに心に向ける時、私の中には私しかいないことを感じています。

異語。

***さん、自分が計画してきた道筋を、淡々と歩いていくこと、それがあなたの喜びです。あなたが語ったように、まだまだ己をそびえ立たせる思いは、とても強いですが、その中で、自分を救うために、すべてがあつたことを、心で感じているあなたを信じていってください。その思いを、瞑想をすることによって、自分の中で、大切に育てていってください。

田池留吉の世界と、ピタリと心を合わせることに、それは、大変難しいです。あなたが思っているよりも、はるかに難しいです。どうぞ、そういうことを、あまり考えずに、それよりも、ただ、淡々と自分の心を見て、そして、瞑想をする時間を持つていってください。心の中の優しさ、温もり、そのあなたを信じる方向に、まずは一歩を進めていってください。

八九、会員番号1445さんの意識

***さん、あなたの心を語ってください。

自分の思いを抑えてきました。爆発するエネルギーを抱え持っています。すごいエネルギーを持っていると思います。しかし、私は、そのエネルギーに、まだまだしつかりと蓋をしています。言うなれば、地獄の底の底にある私自身を、しつかりと見ていないし、知らないです。いいえ、知らないということはありません。私は、自分を抑えています。心の中の闇の世界を、しつかりと抑えています。たくさんの意識達が、その中で苦しんでいます。今の肉体を通して、ほんの少しでも、その苦しさを感じるだけの優しさが、私にはまだまだないと思います。そう

私は思っています。私は、自分をそのように思ってきました。

心の中の冷たさに、触れています。自分を語っている今、心の中の苦しさを、しっかりと抱きしめてやれない冷たさを感じています。

私を知っているのは、肉の優しさでした。今、はっきりとそのように感じます。

***さん、田池留吉のほうに心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、心を向けるな、向けるな、向けるな、ああ、そのように語ってくる私がある。ああ、この凄まじいエネルギー、これが他力の世界でした。心を向けるなど言ってきます。心に歯向かう思いを感じます。田池留吉、真実の自分から目を背けてきました。いつも、いつもそうやって、私は、自分を裏切ってきたのです。今、あなたの目を見ると、私は、そう感じました。自分から目を背けて生きてきた自分を感じます。

田池留吉、心の中の暗さに、初めて触れました。暗黒の世界が広がっている私の意識の世界の奥深くに、まだまだ思いが届かない、そんな感じがしてなりません。

異語。

***さん、どうぞ、あなたのその口を動かしてください。異語が出てきますか。異語でどんどんあなたの中を語ってください。

奥さんと異語で瞑想されていますか。もちろん、瞑想する中で、一人で異語を語ってください。要は、自分の中の思いをできるだけ、形、すなわち、口を通して異語で語るとかして、自分の外に出してってください。心の中の思いを吐き出すことは、容易いことではないかもしれませんが。肉の感情に訴えるものではありません。

しっかりと自分の中を見て、そして、自分の思いを外に吐き出す。この作業は、本当に真っ黒な自分を何重にも積み重ねてきた過去からの自分だけど、しかし、今、この肉体をいただいているこの時間の中で、少しでも、自分の中に思いを向けていこうとする真剣さ、真摯な思いがなければ、できない作業です。

心に培ってきた暗黒の世界を、心で感じることで、嬉しいことはありません。肉体を持たせていただき、その肉体を通して、その暗黒の世界に触れていく喜びを、どうぞ、心で感じていってください。

そうなってくれば、この学びがどれほどすごいものなのか、田池留吉という存在がどんな存在なのか、あなたの心で感じてきます。

やはり、あなたも、まだまだ学びを軽くとらえているような感じではないでしょうか。

九〇、会員番号1058さんの意識

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

私は、自分の心がどこを向いているのか、今は、全く分からない状態です。学びをしてきたつもりです。私も学びをしてきたつもりです。母の反省も他力の反省も、自分なりにやってきました。学びの年月の中で、繰り返し、繰り返し、自分を見つめてきましたし、自分のエネルギーも、感じてきたつもりです。

ああでも、つもりとしか表現できないのは、私の心の奥底にある思いを、私は、まだしっかりと抱えているからだと言わなくてはなりません。己の偉い私が、まだ自分の中に鎮座していることを感じます。

母に使ってきた思いも、まだまだ表面的なものでした。

私は、母を殺してきました。何度も、何度も、母を殺してきました。戦いのエネルギーを広げてきたのです。今世の母に対して、自分の思いを語る時、私は、母を嫌って、嫌ってききましたと出てきます。肉の私は、なぜこんなにまで母を嫌うのか、理解に苦しむところがあります。ですが、私の中が、そう、自分のエネルギーを表現すれば、そういうことだと示していたのです。心の中にある冷たさに、今、少しだけ触れています。肉体細胞に対する思いを、自分の中で見ていく時、これほど、私は、自分を破壊してきたエネルギーを培ってきたのだ、心に溜め込んできたのだ、それが私の転生だった、そう、感じます。

肉体細胞は、私に伝えてくれています。

「あなたのエネルギーを感じてみてください。私達は、あなたとともにあります。私達の思いを、あなたは、自分の肉体細胞から感じてみてください」、そのように伝わってきます。

異語。

***さん、田池留吉のほうに心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、心の中でお前を憎んできた。憎んで、憎んで、何度も、何度も殺してきました。田池留吉は真実を伝えてくれている意識、そう私に伝われば伝わるほど、何ぬかすか、お前の言うことなど聞きたくもない、そんな私を感じてきました。この思いの深さを、私自身、まだしつかりと、とらえていません。心でとらえていないことを感じます。

田池留吉の目は、私にそのことを伝えてくれます。心を、しつかりと見つめていきなさい、ただそのことだけを伝えてくれます。

異語。

****さん、苦しい転生を重ねてきました。私は、あなたの肉体細胞に思いを向ける時、心の中に伝わってくる思いは、もつと、もつと優しくなっていくてください、心に伝わってくる思いは、そのメッセージです。肉体細胞があなたに伝えてくれる思いを感じていってください。頭では分かっていると思います。そして、あなたの心にも響いてきていると思います。どうぞ、お母さんに向けて瞑想をして、あなたの心が少し、和らいだ時、肉体細胞に思いを向

ける瞑想を、これからも続けていってください。

優しい思いを待っています。心の中にあるのは、底知れぬ暗黒の世界です。しかし、そこに心を向ける時、どうしても、どうしても、真実に出会いたいあなたの切なる思いを感じます。優しさとともにある厳しさ、厳しさとともにある優しさです。どうぞ、厳しさを伴う優しさ、本当の優しさを、これからの時間の中で、可能な限り、知ってってください。

九一、会員番号1481さんの意識

***さん、あなたの中のアマテラスに心を向けてみてください。

心の中に作ってきたアマテラスの世界、はい、凄まじいエネルギーを感じます。私は、その中でそびえ立ってきました。アマテラスとともに己を見よと、私は、アマテラスの下にそびえ立ってきました。

今、思いを語る時、アマテラスの心は、とても冷たいことを感じます。

ああ、それは、私でした。アマテラスそのものでした。私の心は、とても冷たかった。ア

マテラスの冷たさは、私でした。今、そのことを感じます。

私の中のアマテラス、まだまだ苦しいです。そして、心をアマテラスに向けてみなさい、そう伝わった時、私は、自分の冷たさを感じました。

心の中のアマテラスは、苦しみ喘いでいます。心を向けると、その苦しみが伝わってきます、私は、その苦しみに対して、とても冷たい自分を感じています。私の中のアマテラスに優しい思いを向けることを、まだできません。心の中には、たくさんの救ってくださいという私を感じます。すべてアマテラスを神としてきた狂った意識達です。心の中を覗けば覗くほど、私は、後ずさりするような私を感じています。冷たい自分を感じます。

異語。

***さん、あなたの中に嬉しい思いが伝わってくるとありました。アマテラスにむけると嬉しい思いが伝わってくるとありました。

確かに、そうですね。アマテラスも、本当の自分に帰りたいと、あなたに必死に訴えています。そうではありますが、あなた自身の心の中には、まだまだアマテラスを拒否する思いがたくさん、たくさんあるのです。

それが冷たい波動となって、アマテラスに流れていきます。

嬉しいと感じる思いは、確かにあるでしょうが、それ以上にあなたの冷たさを感じます。

どうぞ、心をしっかりとアマテラスに向けていつてください。心の中に培ってきたアマテラスの世界は、すごいエネルギーです。

異語。

***さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、心に向けることを、私はまだまだはつきりとしていない。これが私の現状です。心に向けることをしようとしています。しかし、私の中は、まだまだです。

私は、自分にこのことを伝えたかった。

そんなに簡単に、田池留吉のほうに心に向けることはできないことを、自分に伝えたかったです。それが、私の今回の申し込み理由です。

私は、私に、今の私を伝えたい、その思いから、私は、申し込みをさせていただきました。しっかりと心を見てまいります。厳しい現実を、今、明らかにした以上、私は、自分をしっかりと見ていきます。

私は、二五〇年後に心を繋いでいけるかどうかの大事な時期、大事な今世、今、そのように感じさせていただきました。はい、これが、私の今の偽らざる思いです。

九二、会員番号1807さんの意識

****さん、あなたの思いを語ってみてください。

心の中を覗くことが、とても恐いです。心を見ることがとても恐い。自分が培ってきた世界です。私が作り上げてきた世界の中に何かがあるのか、私は心に感じます。今のままで瞑想することは、恐いと感じます。

心の中の世界を感じるから、はい、真つ黒な、真つ黒な世界を感じています。

私は、それは私だと、まだ、心でしっかりと分かっているわけではありません。ただ恐怖

を感じるのです。たぶん、私に伝えてくれているのだと思います。何か分からないけれど、恐いとか不安とか感じるの、私の中で何かか叫んでいるのだと思います。その何かを、私は、知りたい、知りたい、そんな思いが広がっています。

知識では知っています。それは私でしょう。私の過去世でしょう。地獄に落ちている私でしょう。そういうことは、頭では知っています。しかし、実際、心に響いてくる不安や恐怖は、計り知れないものがあります。到底自分自身だとは思えない。地獄に沈んでいる私だとは、到底思えません。

***さん、お母さんのほうに心を向けてみてください。

お母さん、お母さん…。今、お母さんに思いを向けています。

小さかった頃、私は、お母さんに私を全部任せていました。何の不安もありませんでした。お母さんに任せているという思いもあります。ただただ、そこに広がっている世界を、今感じます。何かしら安らいでいる思いを感じます。ああこうやって、私は、私を思えばいいんだ、そんな感じがします。

お母さん…。お母さんに使ってきた心は…。あんなに安らいでいた私なのに…。

お母さんに対して向けてきた思いを、はい、その一端を、今、感じています。すごいエネルギーで母に向かっている私を感じます。母の意識を蹴散らしている私がありました。

苦しい、苦しい、苦しい、苦しい、何とかしろ、何とかしろ、そんな思いを感じます。心の中に広がっていくのは、そんな思いです。あの時の安らいだ思いは、どこへやらです。私の中は、苦しい、苦しい、何とかしてくれ、何とかしろ、ああ苦しい、苦しい、そんな思いが、広がっていきます。

異語。

***さん、他力に使ってきた心を、見ていってください。心の中にパワーを求めてきたあなたがいます。すごい思いで、強い思いで、パワーを求めてきました。宇宙のパワーを求めてきたその思いが、今、あなたの中に、恐怖や不安な思いを広げています。

宇宙に向けてきた思い、宇宙に向けてパワーを求めてきた思いで、あなたは、何度も、何度も狂ってきたはずです。今、あなたに、このようにお伝えしても、あなたには、まだ、しつくりこないと思います。ああそうだと思えないと思います。それだけ、あなたの中は、他力のエネルギーでがんじがらめなのです。

しかし、今、あなたは、あなたの中を、これまでよりも、少し奥を覗いたはずですよ。しっかりと、母に向けてきた思い、他力の神々に向けてきた思い、パワーを求めてきた思い、その思いを、自分の中で見ていってください。興味本位や軽い気持ちで、学びをしないでください。学びをしていこうと思うならば、真剣に取り組んでいってください。中途半端では、自分を苦しめるだけです。

これまでに、心に培ってきたエネルギーの大きさ、すごさ、生半可ではありませんが、あなたも、今世、この学びに繋がった以上、思いをひとつにして、自分を見つめていってください。

九三、会員番号1799さんの意識

***さん、あなたの今を語ってみてください。

ようやく、自分がどれほどそばえ立っていたのかを感じています。私の学びは、全く肉でございました。頭を回していました。肉が前面に出ておりました。そのことを、心で少し感じています。少し感じるだけで、私の中は大変喜んでいきます。ああこういうことだったのか、今

少しだけ感じています。肉をそびえ立たせているとは分からない、本当にそうでした。

私は、私を軽く見ておりました。肉の私を私だとする思いは、とても強かったです。今、そのことを改めて感じます。ああそれでも、私はまだまだ、肉の次元にとらわれています。肉の私を前に出して、この学びをやっつけていこうとしてきたことが、本当にちっぽけな世界だったというのを、少しだけ感じさせていただきました。こうして、私は自分の中を見ていけばいいんだ。誰とも比較することもなく、ただ自分と自分の中に心を見る喜びを、今、感じています。

***さん、田池留吉のほうに心に向けてみてください。

異語。

田池留吉、心の中には、まだまだくそったれ田池留吉の思いが残っています。それはそうでしょう。長い時間、私は、私を知らずにずっときたのだから、今世のほんの僅かな時間の中で、私自身がコロリと変わることはできないと思います。今、田池留吉のほうに心に向けた時、しかし、私は、そう心に向けることを学べること自体、奇跡に近い、そんな自分を感じています。それほど、私の意識は、地獄の底の底をさ迷い続けてきました。自分を見限ってきた思い

が、今、心の底の、底のほうから響いてきます。肉を持たせていただいたこと、これが、どれほどの大きな愛なのか、今、私は、心の底から感じさせていただいています。

私の学びは、まだ一步を踏み出していません。これから、私は、その一步を踏み出していきます。着実な一步をと、そう、本当に着実な一步を踏み出していくのが大変だ、今、そのように、田池留吉のほうに心向けさせていただき、感じさせていただきました。己が偉かったです。私は、何も分かっておりませんでした。

異語。

九四、会員番号1081さんの意識

****さん、あなたの心を語ってください。

心に感じるままに、私は、この肉を動かしていきたい。本当は、もつと素直に、自分の思いをこの肉を通して、表現していきたいのです。

心を感じ広がっている私の中のたくさんの私、その意識達の思いを、しっかりと受け止めていくために、私は、今、ひとつの肉体を持たせていただいています。心を感じる思いを、もっと素直に出していけばいいと、伝わってきます。

色々なしがらみの中で、今世の時間を費やしてきたけれど、私も、もうしっかりと自分だけを見つめて、この肉の人生を終えていきたいです。

なぜ生まれてきたのか、なぜ今、肉体を持っているのか、そして、私の転生は…、これからの私…は、そのほうに思いを向ける時、どうしても、どうしても、今世は外せない大切な時間と空間です。

心が敏感なだけに、色々な意識を感じます。しっかりと心を合わせていきます。狂おしいほど、中の思いが響いてきます。

はい、私も、切なる思いが、心の底から響いてまいります。

***さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、はい、中は苦しいけれど、狂ったように苦しい、苦しいって叫んでいるけれど、そのひとつひとつが、本当のことを求めて止まない意識だと感じます。なぜこんなに苦しい転生を繰り返してきたのか、そして、今世も、なお苦しい人生があったのか、私の中は、大きく頷いています。心に感じる思いをしつかりと見ていきます。

私しかいません。自分を見つめていくのは、自分しかいない。田池留吉の目を見て、はつきりとそう感じます。

心に培ってきた数々の間違ったエネルギー、凄まじい勢いで、私の中を巡っているけれど、私は、それをしつかりと受け止めていけるだけの私だったことを、もっと、真摯に真剣に知っていきたい、知っていきこうとしています。

今世、私の周りにいる人達よ、夫も子供も、本当にありがとう。狂い続けてきた私に、それを伝えてくれました。

苦しい私を、喜びの私に変えていくことができることを信じて、信じてまいります。

九五、会員番号1471さんの意識

***さん、他力に使ってきた心、他力に使ってきた思いを見てきましたか。

他方のエネルギーにがんじがらめの中で、他力に使ってきた思い、他力を求めてきた思いを見ていくことは、難しいです。

心の中がざわめいてきます。他力に心を向けてきた当時の私の思いを振り返る時、私の心の中はざわめきます。すごいエネルギーを感じます。私は、だから、その心を、しっかりとじつくりと見ることを、まだしていません。

恐いんです。私自身がどうにかなりそうです。自分が求めてきたエネルギーは、自分がただただ欲の思いで求めてきたものだった、そんな気がします。私の中に作ってきた他力の世界はすごいです。今、少しだけ、心に向けようとしても、私は、恐怖でいっぱいです。

それよりも、この苦しい心を何とかしてください、なぜなんだろうか、なぜこんなに苦しむのか、どうにかしてください、何とかしてください、そんな思いばかりが出てきます。

***さん、何も恐怖することはありません。いつしよに、今あなたが培ってきた世界、そうあなた自身を振り返ってみましょう。

異語。

はい、助けてください、救ってくださいと、あなたに毎日、毎日、いつも、いつも、伝えていきます。苦しいんです、苦しいんです。寂しいんです。真つ暗です。冷たくてどうにもできない。そういうことを、あなたに分かってほしい。私達の苦しみを、あなたの心の中で、もっと、もっと、知ってってください。あなたは冷たいです。

「私は知らない。私を苦しめるな。あっちへ行け。ああ、私に、どうしてこんな苦しみを感ぜさせるのか」。そんな思いが、あなたの心から返ってきます。

あなたは冷たいです。私達は、あなたです、あなたなんです。はい、あなたの心を見てください。冷たい、冷たい心を見てください。心を見てください。私達は、あなたを苦しめているわけではありません。私達は、確かに、苦しいです。だけど、あなたは、今、肉体を持って、お母さんに向けてきた思いを、あなたの中で、もっと、もっと、心に向けてください。はい、あなたに何も求めてこなかった。ただただ、あなたに間違いに気付いてくださいと伝えてくれていたはず。お母さんの思い、お母さんの心、あなたの中で感じていてください。そして、その感じたほんの少しでも、思いを私達に向けていてください。

***さん、今、あなたの世界へ心を向けた時、あなたは、語っていました。

「心を向けてください。優しい思いを向けてください。私達の苦しい思いを感じていってください。あなたは冷たいですよ。」

そんな思いを、感じられたと思います。そうです、あなたは、とても冷たいんです。なぜそんなに冷たいのか、どうぞ、あなた自身、お母さんに使ってきた心を振り返りながら、真剣に自分と真向かいになっていってください。苦しい、苦しいだけではどうしようありません。あなたがあなたを救っていくこと、あなたがあなたに心を向けていくこと、あなたが、安らぎのあなたに、喜びのあなたに、幸せのあなたに戻れる術はそれしかありません。

異語。

***さん、田池です。あなたは、幸いにも、今世、お母さんからその肉体をいただき、学びに繋がりました。難しく厳しい道なのですが、しっかりとあなたを見つけていってください。私、田池留吉の世界を心で感じられるように、あなたは、あなた自身の計画があるはず。学びの原点に戻り、しっかりとあなたを見つけていってください。私が、あなたにお伝え

することは、それだけです。

このメッセージが、どれほどの意味を持っているのか、あなたは、あなたを見ることでしか、分からないと思います。

私、田池留吉と欲とは合いません。田池留吉の世界は、喜びです。喜びと欲とは合わないんです。このことを、どうぞ、あなたの心で知っていただく下さい。

九六、会員番号1731さんの意識

***さん、あなたの心を語ってみてください。

心を見ることの難しさと、そして、大切さを今感じます。心を見る実践が足りないと感じます。今、私は自分を見た時に、私の中には、まだまだ、他力のエネルギーをしっかりと握っている私が、ここにあることが分かります。学びに繋がっていても、自分を真剣に見ていくことをしてこなかった自分です。時間だけがいたずらに過ぎていったような気がします。

学びに触れた時は、嬉しいと思えました。心の中に、嬉しさが広がっていたのを思い出し

ます。私の中は知っていたのですね。間違ってきた自分に、ようやく、本当のことを伝えることが出来る、そんなチャンスに触れていることを、私の中は、知っていたのです。

そして、また、同時に、一斉にそれに歯向かうエネルギーを感じました。

今思えば、本当に自分の中は、矛盾だらけ、そんな私だったなあ、あの当時のことを思い出しています。

****さん、あなたの中を少しだけ、今、語っていただきました。他力の反省を、そこにしては、この学びは進むことができません。

自分が培ってきた他力の世界、ひれ伏してきた他力の神々に、まだまだ未練があるというか、そちらのほうに思いが向いているようです。どうぞ、他力の反省をしっかりとやっていってください。

あなたがあなたを語る時、自分の中の凄まじいエネルギーを押し隠したまま、そんな反省ではなかったでしょうか。

****さん、心を田池留吉のほうに向けてみてください。

異語。

田池留吉、真実の自分に歯向かってきた凄まじいエネルギーを感じます。私の中には、他方の世界が、まだまだしつかりと残っています。このエネルギーのままに、私は、今日までやってきました。反省も瞑想も、その土台でやってきたことを感じます。

ああ、もっと真剣に自分を振り返って、真剣に自分と真向かいになって、心の底の底にある私の思いを、もっと自由に解き放してという、そんなチャンスを、私は、自ら逸してきたと感じます。

肉は、それなりに一生懸命に学んでいました。しかし、私の中は、すごいエネルギーで、自分の中を、もっと見つめる、見つめると叫んでいます。お前のエネルギーを、心で感じてくれ。狂ったエネルギーを、心で感じてくれ。そうやって、私が私に叫んでいたことを、今になって感じます。

心を田池留吉のほうに向けるということは、すごいことだった、私は、今、そのことを感じています。

異語。

***さん、どんな思いだっかっていいんです。あなたの心に上がってきた思いを、素直になつて見ていってください。

凄まじいエネルギーが、まだまだあなたの心の中に抑圧された形で、しっかりと残っています。そのエネルギーを、いつどんな時に、あなたは、外に出していくのでしょうか。多分、それがあなたのこれからの転生だと思いますが、今世可能な限り、自分の思いを拾っていってください。

あなたの心を、素直に優しく見つめていってください。

お母さん、お母さん、お母さん…、あなたの中は、叫んでいます。

お母さんの温もりに帰りたい、私達に、温もり、優しさを伝えてください。

お母さん、お母さんの許に帰りたい。あなたの心は、そう叫んでいます。このことが、あなた自身の心に響いてくれば、本当によく分かれると思います。心で分かる学びです。どうぞ、たった今から始めていってください。

九七、会員番号1489さんの意識

***さん、あなたの心を語ってください。

たくさんのお抱えを生まれてきた私に、さあいったい何を伝えてきたのか、苦しい自分にどれだけ優しい思いを向けてきたのか、今、自分の来し方を振り返った時、私は、私に申し訳ないと思っています。

回り道も寄り道も、色々ありましたが、私の人生は、肉を生かすことではありませんでした。私は、私の中をしつかりと見て、感じて、そして、自分に本当のことを伝えていく、そのために、私の肉の時間があったことを、ようやく、薄っすらですが、心に感じてきています。

肉の世界にどっぷりでは、本当の喜びも、本当の幸せも、自分というものも分からずに、無念のうちにまた意識の世界へ戻っていかねばならない、私は、今、しみじみとそう感じています。

学びに触れ、一生懸命に学んできて、そして、学びから離れ、再びここへ戻ってきました。戻ってこれたことが、とても嬉しいです。

ずっと以前学んでいた時は、しっかりと学んでいると思っていました。しかし、学びから

離れ、そして、再びここへ帰ってきた時に感じたことは、格段に違うということでした。

本当に、学びは進化しているのですね。自分の意識が、どれだけそのことに反応していくのか、まだまだ未知数ですが、心をしっかりと向けていこうとしています。以前に学んできた時間を無駄にしないように、いいえ、私にとつては、その時間は無駄ではなかったと思います。あの当時があつて、そして学びから離れ、今に至っているから、格段に違う学びだと感じるのだと思います。

異語。

***さん、田池留吉を思つてみてください。

田池留吉、お母さん。長い間待つていただきました。これからもずっと待つてくれています。そんな中に、私は存在していた。私は、愚かでした。本当に愚かでした。田池留吉、心に感じる自分の優しさも温もりも、みんな、私自身が遮つていたのでした。遮つてきたから、自分が苦しかつただけでした。

学びを自分の中心にして、なぜ生まれてきたのか、なぜ今の時間があるのか、ひたすらに、

自分に問いかけながら、日々の生活の中で、自分の出す思い、自分の出すエネルギーを見つめていきます。

自分が自分に与えた時間、自分が自分に与えた環境です。母の思いをしつかりと感じながら、愚かな肉を通して、思いを見つめていきます。

田池留吉、あなたの目を真つ直ぐに見て、私は、そのように感じます。

他力の世界は、愚かな私が作ってきた世界です。心を向けてきた他力のエネルギーを、しつかりと自分の中で見つめてまいります。

ああそして、私が本当に知つていこうとする世界に、一步、一步近づいていきたいと思ひます。

異語。

***さん、思いを向けた時、心で語り合いたい何かを感じます。

異語。

異語で語らせていただきました。宇宙に向ける瞑想をしてほしい、そのおひとりだと感じ

ます。どうぞ、心を宇宙に向け、そして、あなたが宇宙に吐き出してきた真つ黒なエネルギーを感じていってください。

あなたが宇宙に心に向け、そして、意識の世界を広げていったならば、私を、もう少し分かっていただけだと思います。

九八、会員番号1293さんの意識

***さん、学びに集ってきた動機は何でしょうか。

私がこの学びに集ってきたのは、自分の中の未知なるパワーを知りたい、その思いからでした。心の中に感じるものがあります。ずっと以前より、何かを私は感じてきました。田池留吉のほうに心を合わせれば、その何かを感じることはできるのではないか、そのような思いを、今もしつかりと持っています。

学びの動機はと問われた時、パワーが欲しい、そう心の中が叫びました。パワーが欲しいか。パワーが欲しい、そうやって、私は、ずっと、ずっと、思いを向けてきたように思います。

しかし、その先に何かがあるのか、私の中に巢食っている真つ黒な世界を、私は、まだ感じていません。何か真つ黒な、真つ黒な塊が、心の中にあるのを感じます。今、その真つ黒なエネルギーを、あなたの心で感じていってください、そのように伝わってきます。

異語。

****さん、動機の修正がひとつのポイントです。

お母さんに使ってきた心を見てきましたか。あなたなりに見てきましたか。お母さんの温もりを感じずに、ただただパワーが欲しいと、そちらのほうに心を向けていくと、本にも記しているように、雲行きが怪しくなっていくます。今は、まだまだ、鈍感だからいいけれども、今のうちに、しっかりと自分の学びに対する動機の修正と、母に使ってきた思いを見ていくことです。

異語。

田池留吉のほうに、一度心を向けてみてください。

田池留吉、あなたの目は、私の心の中に真つ直ぐに、真つ直ぐに入つてきます。自分を誤魔化すことはできない。私の真つ黒な世界を、あなたの目は、真つ直ぐに見つめています。心に向けることを恐怖する思いが出てきます。真つ黒を暴かれるのが嫌です。私の中を暴くのです。歯向かうエネルギーを感じます。はい、田池留吉の目を見ると、とても苦しいです。歯向かうエネルギーを感じます。田池留吉、くそつたれの思いが出てきます。お前、私に何を語れと言うのだ。お前などに心に向けるものか、そんな思いを感じます。

異語。

*****さん、あなたの学びは、まだ始まったばかりです。この学びは、一足飛びには行けません。しかし、あなたが、本当に自分の心につけてきた真つ黒な世界を見ていこうと、真摯な思いを向けていったなら、あなたの中は、それに必ず応えてきます。そして、その応えてきたものを、あなたが受け止めていくには、母親の思いを、あなたの中に、しっかりと広げていく必要があります。母親の思いとは、母の温もりです。その温もりの心で、あなた自身を包んでいく作業を少しずつしていただく。

ただ、心が敏感になることがいいことではないのです。敏感になればなるほど、その感じたものをどのようしていくのか、それが問題となってきます。まずは、お母さんの反省です。あなたを生んでくれたお母さんに使ってきた心を見ていってください。

九九、会員番号1209さんの意識

***さん、あなたの今の思いを語ってみてください。

己の偉さに驚いています。正しいと思ってきた私は、いったい何が正しくて、ここまで己をそびえ立たせてきたのでしょうか。本当に、自分を思う時、何と愚かな自分だったか、今になって、ようやく感じ始めてきています。これまでにとくさんの出来事がありました。すべて己の偉さ、愚かさを自分に見せるためのものだった、今、そのことを感じます。

肉體細胞に思いを向ける時、本当にこんなすごいエネルギーを、今もなお受け続けてくれている肉體細胞には、ありがとうございますかありません。

何も分からずにやってきました。本当に何も分からなかった。

肉の中にまみれる、肉に埋もれる、地獄の底の底に喘いでいる、私の意識達には、少しでもほんの少しでも優しい思いを伝えて、この肉を終えていきたいです。

母からもらった肉體、最後の最後まで、自分のために、大切にに使わせていただこう、今、そのように思っています。

***さん、田池留吉を心に呼んでみてください。

異語。

田池留吉、はい、間違っています。他力の反省をしなさい、母親に使ってきた思いをしつかりと見ていきなさい、それを、私は、本当に軽くとらえてきました。母親が、母親という存在が、こんなに大切な存在だったことを、今世の私を通して、私は、初めて感じさせていただきました。

と言つても、他力のエネルギーを、自分の中でしつかりと見ているわけではありません。そのエネルギーは、まだまだ私の中にどっかかりと、真つ黒な世界を広げています。

でも、いいんです。私はとにかく、自分というものが本当に愚かだったことを、今少しでも、

心に感じています。

私の歴史の中で、今世ほどかけがえのない時間はありません。田池留吉という意識に心を向ける、向けよう、そう自分に言えることが、幸せです。

異語。

***さん、自分に優しい思いを向けていく瞑想を続けていってください。1+2=3の世界の厳しさは、あなたの中の確かにある優しさを感じることに、その世界が心に響いてくるでしょう。

あなたの中には、限らない優しさがあります。どんなに闇の中に埋もれていた意識だったとしても、必ずその優しさと温もりの自分に戻っていくことができる、その信を、瞑想をすることによって、少しずつ育てていってください。

100、会員番号1060さんの意識

***さん、あなたの心を語ってみてください。

素直になって、自分の心を語ってみたい。もっと、もっと自分の心を語ってみたい。お母さんに使ってきた思いを見ていくと、私は、心の中の寂しさを感じます。寂しいからパワーを求めてきたんだなあ、そんな自分だった、今、そう感じています。学びの難しさ、心を見る難しさ、肉に流される自分、色々な思いが出てきますが、学びに出会ったことが奇跡に近い、今、私はそう思っています。

自分も生まれ変わりたい、自分を変えていきたい、心の底からそのように願ってきた私だったことを感じています。

そして、そんな思いが心に響いてくるたびに、肉の私の愚かさもまた感じます。

本当に肉の思いって強いんだなあと感じます。それでも、私は、中の思いを、少しでも自分の中心に据えて、愚かな肉の中で、その思いを、しっかりと感じていこうと思います。

パワーを求めてきた心は、とても苦しかったです。真つ黒な世界を、自分の中で作り上げてきました。真つ黒な自分が、自分を苦しみの中に落としてきた、今は微かにですが、そう感じます。

誰が悪いのでも、何が悪いのでもなかった。思い通りにいかないことは、何もなかった。自

分が自分を知らずに存在してきたんだなあ、何かしら、そういうことを感じます。

異語。

***さん、田池留吉のほうに心に向けてみてください。

田池留吉、はい、田池留吉、あなたに会いたかった私を感じます。どんなに苦しい中にあっても、本当の自分に出会いたかったんですね。パワーを求めて、求めてきたけれど、私は、本当の私を探し続けてきた。今、あなたを思い、そう感じます。

しかし、くそつたれ、田池の思いを、私は、まだしっかりと自分の中で受け止めていません。日々の生活で、くそつの思いが飛び出していくとき、その思いに愛しい思いを向けてみます。私なりに向けてみます。荒々しいエネルギーを出して、それで終わりではなく、そのエネルギーを自分の中で見つめていきます。

学びに出会えてよかったです。私には、まだまだ道遠ですが、しかし、今、自分が感じているものを大切に、自分の中で育てていけば、私にも、明るい兆しが必ず見えてくる、そんな予感がします。

異語。

***さん、田池留吉、そしてアルバート、出会いを喜んでみてください。素直なあなたの思いを感じます。肉の思いを、少しずつ弱めて、素直なあなたの思いを信じてみてください。

そうすることによって、あなたの中に、喜びが徐々に大きくなっていくでしょう。爆発的とはいかないまでも、喜びが広がっていきます。

今よりも、ずっと、ずっと、しっかりとした足取りで、この学びを見つめ、自分を見つめ、二五〇年後のアメリカの地に思いを向けることができると思います。

それまでは、厳しい転生だと思えますが、どうぞ、二五〇年後の出会いを、自分の中で楽しみながら、そうです、苦しむのではなくて、楽しみながら、これからの時間を過ごしてください。

***さん、あなたの心を語ってみてください。

学びの道筋を、いつの間にか曲げていった私です。そこには、大きな欲がありました。もともと欲が大きかったけれど、その思いを、私は、しっかりと見ていかなかったです。だから、私の学びの道筋は、大きく横にそれていきました。

自分が感じた世界を、本当の世界に通じる道だとして信じて疑わなかった私の思いは、欲の思いだけでした。

私は、そのことを学ばせていただきました。私にとって、いい勉強でした。

しかし、私は、そのところの反省を、まだ充分にしているとは言えません。愚かな自分、欲いっぱい自分、そういう反省はしてきたけれど、田池留吉と出会う、セミナーに集う、そのチャンスを得たにもかかわらず、私は、その方向を自ら曲げてしまったことに対する重大さについての深い反省は、まだできていません。

そんな私ですが、今、この時期になって、もう一度やり直していきたいと思うようになりました。瞑想も反省も、このままでは中途半端に終わってしまいます。それでは、ダメなんだ、

そんな声が心から聞こえてきます。

***さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、私は愚かでした。心を真実の方向に向けるようにと自分に用意してきた学びのチャンスを、自ら潰しにかかった私でした。

しかし、私は、もう一度やり直そうと思っています。自分なりに時間を作り、時間を見つけて、瞑想をしています。母親の反省もしています。

田池留吉、心に感じる思いをしつかりと、自分の中で見つめてまいります。それができるあなたですよ、今、そのようなメッセージがあったように思います。そうでした。私は、私の心を見ていくだけでよかったです。

異語。

はい、私には、自分を見つめる時間が、まだたくさん用意されています。自分に用意してきた時間を大切にしてまいります。

一〇二、会員番号1422さんの意識

****さん、心を田池留吉に向け、あなたの思いを語ってみてください。

自分の中を知るのが恐いというのが、私の本音です。心の中に作ってきた闇の世界は、凄まじいものがございます。人を人とも思わずに、私は、自分の思いを遂げようと、すごいエネルギーを流し続けてきました。

これが肉で生きることでした。肉しか見えなかった。肉の自分しか見えなかった。自分の幸せと喜びのためならば、何だっと思ってきました。過去の私は、間違いなくそうでした。だから、他力の神々にも、ひれ伏し、どれだけ願いを込め、奉ってきたことか。思えば、本当に貪欲な自分だったことを感じます。

田池留吉の目は、その私の世界を、真っ直ぐに見つめています。私だけが私を誤魔化して、

私だけが私から逃げようとしていることを感じます。

はい、真っ直ぐに見つめられた目から、逃げる事ができない今を、感じています。

異語。

*****さん、田池です。どうぞ、あなたの心を真っ直ぐに見つめていってください。どんな思いも、あなたの中で見つめていくんです。真っ黒などうしようもない思いは、みんな同じです。

それを、あなたの中で、しっかりと見つめていきなさい。見つめていくことが、あなたの今世の仕事です。あなたは、今世、そのために生まれてきました。どうぞ、もっとしっかりと自分の生まれてきた意味を、心で分かるあなたに蘇ってください。肉のことは、もう程々でいいです。肉の家族は、程々でいいです。肉のあなたは、程々でいいです。なぜ、あなたは、その肉体を持ってきたのか、しっかりとあなたの中で答えが出せるような時間を、これから刻んでいってください。

あなたも、セミナーに、都合をつけて集ってこられたと思います。中がそのように、願っていたからです。そのあなたの中の思いに、忠実に、これからの時を過ごしていってください。

***さん、心の中に作ってきた他力の世界を、もっと見ていってください。

はいそうです。他力の神々に心に向けてきた私を、まだ私自身、はっきりと自覚しておりません。幸せと喜びを求めてきた心の醜さ、それが私の過去でございました。自分の中に作ってきた愚かな世界を、私は、まだしっかりと見ていません。母に使ってきた思いを見ることが、まだまだ中途半端です。自分のエネルギーを、何かの拍子に感じることはありますが、それがどんなにすごいエネルギーなのか、肉には、まだ自覚がないと思います。

この肉を通して、私は私を全開しているわけではありません。

心の中に溜め込んできたエネルギーを全開していった時、私の肉体細胞は、吹っ飛びます。それほどのすごいエネルギーを蓄えてきました。

肉は、そこまでの自覚はありません。そんなすごいエネルギーを作ってきたという自覚は、まだまだありません。

それを、私は、この中から伝えていきたいのです。学びに集ったということはどういうこ

となのか、田池留吉の肉を知ったということはどうということなのか、もっと心を見てくれと、私は、私に言いたいです。

異語。

***さん、田池留吉のほうに心を向けてみてください。

田池留吉、お前などに心を向けるか、向けるものか。散々そうやって、私は、自分に抵抗してきました。それがなぜだか、このように自分の意識の世界を語る羽目になってしまいました。いいえ、それほど、私の中は、自分自身をもっとさらけ出したいと思っっているのです。苦しい、苦しい中を生き抜いてきた自分自身を、もっと心で知っていききたい、その思いが、心の中に溢れるようにあります。

苦しかった、苦しかった、苦しかった。この私を優しい思いで、受け止めてほしい、そんなたくさんの意識達を、今、感じています。

田池留吉に心向けることを、しっかりとやってこなかった私を感じます。学びに集えることがどれほどのことなのか、今、田池留吉のほうに心を向けなさいと言われた時、少し、感

じました。

もっと強烈に、私の中は訴えているけれど、肉の壁が、あまりにも部厚い。それでも、こんな体験は初めてです。心の中にたくさん意識達が、蠢いているの感じます。

異語。

***さん、あなたの中の思いを、少し、語らせていただきました。肉のあなたが、どれだけ、このことが理解できるかは、分からないし、また、そういうことはどうでもいいことです。

しかし、これがあなたの現実です。あなたに、心に向けた時に、感じる思いは、もっと心を見てくれ、苦しいということ。あなたの中がそう叫んでいます。

これから、どれくらいできるかとか、そういうことを考えずに、とにかく、やれることはやっていってください。そのために、あなたは、今、肉を持っています。このことをあなたの心でしっかりと感じていってください。

そうだと素直にやっていくか、反発していくか、ダメだと心を落として、放り出すか、それはあなた次第です。しかし、あなたにも、ゼロ歳の時がありました。ゼロ歳のあなたは、何

も思わず、何も考えず、ただただ委ねていたのです。肉のあなたがするものではありません。そういうことが、心で感じていかれたなら、あなたは変わっていくでしょう。

一〇四、会員番号1253さんの意識

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

私は、何を学んできたのか、今は、全く分からない状態です。

何も学んでこなかった、心の中から、私が言っています。しかし、私は、その思い、その声を、自分の中で認めるわけにはいきません。

何でそんなことを言うんだ。こんなにセミナーに集ったじゃないか。それなりに学んできた。心を見てきたし、色々なものを感じるし、私も学んできた。だから、やっぱり、自分を否定することはできません。

ああしかし、私の中は正直です。お前は何も学んでいない。何をやっているんだ。何も変わってはいない。ただ、自分の不平、不満、愚痴を、辺りに撒き散らしているだけじゃないか。

もつと真剣に自分を見つめる。そんな思いが響いてきます。

****さん、そうですね。あなたの中は、そう語っています。あなたは、自分の肉というものの、肉の思いというものが、どれほど中の思いを遮っているのか、その自覚がありません。それは、とても自分に冷たいんです。たとえば、この世的に優しくても、冷たいんです。自分の中に思いを向けることなく、時を過ごしていくことは、自分にとって、とても冷たい。冷たくて、冷たくて、そんなあなたの中は、本当に悲惨だと思えます。

お母さんに肉体をいただきました。そのことを、本当にどう思っているのか、自分の中を、しっかりと見てみてください。

異語。

****さん、田池留吉の目を、あなたは真つ直ぐに見ることができますか。

異語。

田池留吉、はい、私はあなたの目を真つ直ぐに見ることはできません。

自分を偽って生きてきました。心の中の苦しさも何もかもに、目を逸らして、私は生きてきました。そんな自分の今を、しっかりと見つめなさいと、あなたは、真つ直ぐに私に伝えてくれています。

だから、あなたの目を見ることはできない。その目は、ただただそのことを伝えている。私の中を真つ直ぐに見ているその目に対して、私は、今、ほとんど何も応えることはできない。これが私の今でございます。

異語。

*****さん、田池です。あなたは、まだ若いけれど、今まであなたが心を見るチャンスはいくらでもあったはずですよ。

たとえば、ご自身の身体が不調な時があったでしょう。そして、職場においても、色々な心を使ってこられたはずですよ。ましてや、あなたの周りにいる人達、お父さんやお母さんや、そして奥さん、その人達に、どれほどのエネルギーを流し続けてきたか、あなたは、あなたの心を見ていないですよ。たくさんのチャンスを自ら潰してきました。私からすれば、とてももっ

たいないと思います。若くて、体力もあって、気力も充実していて、なおかつ、この学びを肉で知っている、そんなあなたの今は、とても恵まれた環境なのです。今、学ばずして、いったい、いつ学ぶのでしょうか。

どうぞ、ご自分が生まれてきた意味、今、肉体を持ってそこに存在していること、もう一度、そこに戻って、真摯な思いで自分を振り返ってみてください。

学びから離れていくかどうかは、あなたの選択です。私は、私から去っていく人達を追うことはしません。やがてその結果を、自ら色々な形で見ることになっていくでしょう。そういうことです。

自己選択、自己責任、私があなたに贈る言葉でございます。

一〇五、会員番号1583さんの意識

*****さん、あなたの中へ思いを向けてみてください。

私は、*****の意識です。心の中に作ってきたたくさんの間違い、苦しい、苦しい、苦しい、

どんなにしたって、その苦しみから抜け出ることはできませんでした。

今世、私達は、ひとつの肉体を持ちました。今度こそ、苦しみの私達をどうにかしたかったんです。この肉体を通して、見て聞いて、そして心に感じることで、私達の苦しみを、あなたに知ってほしかった。

あなたには、まだ私達の思いが届かないんですか。あなたは、その肉体を自分だと思っています。私達の存在にまだまだしつかりと、心を向けてくれています。私達はあなたです。あなたなんです。とても苦しいです。

はい、母を呪ってきました。母を殺してきました。本当の自分を忘れ去った私達の心の中には、何もなかった。何もなかったです。ただただ苦しみが広がっていくばかり。砂を噛むような空しさもありました。言葉では言い尽せない寂しさもありました。怒り、恨み辛み、呪い、はい、ありとあらゆる真つ黒な思いは、ここに集中しています。

どうぞ、何からでもいいです。私達を感じていってください。心の中の苦しさを感じていってください。

異語。

****さん、あなたの中を少し覗いただけで、もう苦しさが溢れ出てきます。あなたには感じられませんか。心の中の苦しさを、あなたは感じませんか。しっかりとお母さんに使ってきた心を、拾ってってください。

同じことの繰り返しでもいいんです。訳の分からない思いでもいいんです。何でこんな思いが出てくるのか、肉のあなたに分からなくてもいい。どんどんどんどん、あなたの中から出てくる思いを出してってください。素直に出していくんです。もちろん、日本語では限りません。異語で、どんどんあなたの思いを出してってください。頭を動かす必要はありません。心の中の思いを、どんどん外に吐き出す作業が、あなたに必要です。

****さん、どうぞ、田池留吉のほうに思いを向けてみてください。

異語。

田池留吉に心に向けることを拒否している私があります。こんなに頑なに、私は私を閉ざしてきたんだ、今、心に感じます。

田池留吉のほうに心に向けることは、難しい。はい、そう感じます。

私が心を向けようとするのは、すべて欲でした。何かを感じたい、向けて、何かを感じたいと思っていました。

そうではなかった。田池留吉を思うということは、私の中を、しっかりと見るということでした。今、それを、少し感じます。

異語。

次のことは、あなたがあなたの心で感じていくことだけど、そして、また、自分の心で感じなければならぬことだけど、これだけは言っておきます。

あなたは、確かに、自分の中をしっかりと受け止めたいから、今世、生まれてきて、そして、この学びに繋がったのです。これが、自分の実際の思いだと、本当に思えるかどうかは、あなたのこれからの勉強でしょう。

これまでの流れのままに、肉を終えていっても、誰も咎めはしない。ただ、苦しみのあなたが、そこにあるだけです。

***さん、心を田池留吉のほうに向けてみてください。

心の中に温もりを求めてまいりました。ああしかし、凄まじいエネルギーを培ってきた私の中に、それを自分の中で確立する道は、まだまだ遠いです。肉の頭では分かっています。この学びは、真実を伝えてくれていることも分かっています。

ああだけど、田池留吉のほうに心に向けた時、私の意識の世界を、今、つぶさに感じます。真つ黒な、真つ黒な世界を感じます。そんな中で、私は、数え切れないほど転生をしてきたんですね。そして、今世、田池留吉に心向けることを、教えていただきました。

はい、私の基盤は、肉です。田池留吉に心向けた時、心の底から出てくる思いは、この肉の幸せをずっと求め続けてきましたという思いです。ああだから、私は、母を見下げてきた私の思いを叶えてくれなかった母を呪ってきた。ずっと、ずっと、そんな思いで、母を見続けてきたと出てきます。

他力の神々にも、すべてを捧げたのにと、呪いの思いが出てきます。

ああこれでよかったです。私はこれでよかったです。今、私を確認させていただきました。

異語。

***さん、あなたが感じている母なる宇宙の波動を、今、心で思い起こしてください。

異語。

母なる宇宙の波動に、はい、思いを向けてみます。心の中に伝わってくる思いは、こうです。「母なる宇宙の波動を感じていくためには、もっと心を見ていってください。あなたの中で感じている世界は、私がお伝えしている世界とは、まだまだ大きな開きがあります。それでも、あなたは、このように肉でも努力されていることは確かです。そうやって、あなたは、あなたの心を見ていくんですよ。母なる宇宙の世界は、あなたが感じている世界よりも、もっと、もっと、広くて、広くて、大きくて温かい世界です。どうぞ、日々、淡々と瞑想を続け、心を見ていってください。今、あなたにお伝えすることは、このことでございます。」

異語。

****さん、あなたの心で感じられたと思います。どうぞ、お母さんに向けて、瞑想を続けてください。母の温もりを、もつと、もつと、あなたの中で、育てていってください。母の温もりを感じていくにしたがつて、他力の中に沈み、他力の神々を求めてきた自分自身の間違いに、心から気付いていくはずです。頭ではなくて、心で気付いていくはずです。その作業を淡々と続けていってください。それが、まず優先されるべきことです。

一〇七、会員番号1053さんの意識

****さん、あなたの思いを語ってみてください。

心の中に過ぎる思いは、田池留吉に向けた時の私の思いです。凄まじいエネルギーを溜め込んできた過去からの私を、今世、ようやく、自分の中で知ることができました。すべては、私を忘れ去ったからでした。私は、自分を忘れ去って生きてきたことを知りました。

こんなにも一生懸命に生きてきたのに、こんなにも頑張って生きてきたのに、そうやって、

今世もまだまだ、その自分を崩すことが難しかったけれど、ああしかし、その一生懸命に生きてきた、頑張つて生きてきたという私の思いが、私を苦しめていたんだ、今世の私はようやく、自分を縛っている思いが、どれだけのエネルギーなのかを知りました。

形を整えることが大好きでした。形にはめ込んでいくことが大好きでした。

心を縛って生きてきた、心を縛って存在してきたその苦しさを、今世の私は、この肉を通して、感じさせていただきました。

お母さん、あなたを蹴散らしてきました。我こそ素晴らしい、そうやって、あなたの意識を蹴散らしてきた私でございました。

***さん、そうですね。自分を縛ることは、とても苦しいです。心を縛って生きてきたあなたの波動は、とても苦しかったです。そう苦しかったです。よかったですね。心の中を、もっと、もっと自由にしておいてください。苦しいあなたを、優しい思いで包んでいくことを、これから、学んでいってください。

あなたに伝えてくれている優しさを、心で感じていってください。

限らない優しさ、限らない温もり、瞑想をして、あなたの中で、その世界に触れていってください。

異語。

***さん、私は、田池留吉です。あなたの心の世界を、私の世界と合わせていった時、まだまだズレていることをお伝えしておきます。

私の世界は、もっと、もっと広いです。心の中にある田池留吉の世界、アルバートの世界に、あなたの心をしっかりと向けていってください。

はい、心から田池留吉を、そして、心からアルバートを呼べるあなたになっていってください。
異語。

私、***の意識でございます。田池留吉、申し訳ございません。心を見つめてまいります。しっかりと心に向けてまいります。ありがとうございます。

***さん、心を語ってみてください。

ようやく、自分を少し語りたいたいと思いました。他力の神々にひれ伏してきた自分を、少しだけ語りたいたいと思いました。

厳しい戒律の中で自分を縛ってきた心を、語りたくなりました。苦しいことはやめにしましょうと伝わってきます。

自分の苦しさから目を背けることが、どれだけ自分に冷たかったか、私は、今、少し感じています。

正しいと思ってきました。自分の信じてきた神は、正しかったと思ってきました。しかし、どれだけ自分の心を捧げても、私の中の苦しみは、どうすることもできなくなったことを、もう認めざるを得ません。

少し、自分の中を見た時、こんなにも寂しかったのか、こんなにも苦しかったのか、こんなにも辛かったのか、そういう思いが、心に響いてきます。

***さん、田池留吉のほうに心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、はい、まだまだしつかりと心を向けられない私は、田池留吉に対して、素直になれないことを感じます。

だけど、私も、もう自分を素直な目で見つめていきたい、優しい目で自分を見つめていきたい、そのよう時期に来ているのかなあと、今、田池留吉を思う時、そう感じます。

心の中には、真っ黒な、真っ黒な私の世界が、ずっと、ずっと広がっています。素直になつていきたいです。はい、そう思います。

****さん、ゼロ歳の時のあなたを、思い出してみてください。

異語。

お母さん、お母さん…。お母さんだけを見つめていた私があります。こんなにも安らかな私がありました。お母さん、今、優しさが伝わってきます。

この優しさで、私は私を見つめてまいります。優しい目で、私を見つめていきます。厳しくて鋭い思いで自分を突き刺していた、そんな私だったことを感じます。

*****さん、田池です。どんな時も、ゼロ歳のあなたに戻って、自分を見つめていってください。あなたがあなたを受け止めていく以外に、幸せになる方法はありません。このことを、どうぞあなたの中で実践していってください。あなたの心の奥底に、本当の自分があることを信じて、他力の神々と決別する勇氣を持ってください。

決別するとは、他力の神々を自分の中で、受け止めていくことを言います。

一〇九、会員番号1366さんの意識

*****さん、あなたの思いを語ってみてください。

精一杯背伸びをして生きてきました。自分の苦しい心を押し隠したまま、私は生きてきました。苦しかったです、寂しかったです。どうしようもない自分を感じてきました。しかし、

私は、自分を崩すことができなかつた。

自分を崩すなんて、到底できませんでした。そんなことをしたら、私が消えてなくなる、そんな不安と恐怖がありました。

私は、精一杯背伸びをして、格好をつけて生きてきました。ずっと、ずっと、そうやって、生きてきました。それがたまらなく今、苦しいです。

もっと裸になっていきたい。素直になっていきたい。どんなに地獄の奥底に落ちていようが、私は、私に素直になっていきたいです。

自分の中のたくさんの自分を、私は、もう、受け止めていきたいと思えます。

異語。

***さん、あなたの中の思い、必死な思いを、どうぞ、もっと心で感じていってください。色々あなたの思いはあるでしょうが、それは何ていうこともない、あなたが過去からずっと溜め込んできた思いからすれば、たわいもないことです。

ひとつの肉体を持つて、ようやく、自分の中の苦しみに耳を傾けよう、心を傾けていこうと、今世のあなたも、お母さんからその肉体をいただきました。どうぞ、もっと真摯な思いで自分

を見つめていってください。

お母さんから、肉体をいただくことが、どれだけすごいことなのか、心で感じれば感じるほど、今のあなたにとって、何が大切なことが分かり、そして、今あなたがそこにいること自体、大変な喜びだと分かります。

何がなくとも、自分を見つめることができる、そこにポイントを置いて、自分の心の中をさらけ出していってください。

表面だけの喜び、上辺だけの幸せでは、心が納得しないことは、あなたももうすでに感じておられると思います。

異語。

*****さん、田池留吉のほうに心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、たくさんの時間をいただきました。心をしっかりと向けてまいります。これか

らの私は、もう自分を裏切らないように、自分の中に、自分を繋いでいく足がかりをつけていると思います。

たくさんの時間、たくさんのチャンスをいただき、今、田池留吉に思いを向ける時間を与えられています。肉、肉で生きてきた私に、自分の中から、そうではないという思いが伝わってきます。その思いに素直になってやっていきます。

****さん、田池です。あなたも、長い間学んでこられました。どうぞ、しっかりと自分を見つめてみてください。

自分の間違いに気付き、自分の間違いを受け止めていく喜びを、あなたの中で広げてみてください。何も正しいことはありませんでした。すべて、本当の自分を捨て去った時から、間違い続けてきたことを、心で、しっかりと感じてみてください。

一一〇、会員番号1538さんの意識

****さん、心を語ってみてください。

田池留吉、心の見方が間違っていました。自分の中を見ていくと、私は、今、その思いに突き当たります。心を見てきたつもりです。どんなに苦しい中を生き続けてきたかを、私は、自分なりに感じてきました。心を見ることによって、自分なりに感じてきました。しかし、私の心の見方は違っておりました。やはり、土台の問題でした。本当に自分の中を見つめていき、そして、それが喜びへ変わっていくには、土台を変えることに尽きる、今、そのように思います。ああしかし、私の今の環境の中で、じっくりと自分と向き合うことは難しいです。まだ、私は、そのような時期に来ていないというか、まだまだ自分の肉のことに思いの大半が向いています。それが、私の現実です。

その向け先を、少し動かすだけでも、私の中は、大いに違ってくると、今、感じます。しかし、私は、そのきっかけが、まだ自分の中でつかめていません。だから、私の見方は、間違っている、そのような思いが、心から出てきます。

***さん、田池留吉のほうに心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、学びの難しさを実感しています。形ではないんですね。二者択一とは、形ではなかった。自分の心でした。心が、どれだけ肉にとらわれているか、今、田池留吉のほうに心を向けた時、それを感じます。

厳しい私の現実を感じさせていただきました。今、私が立っている場の難しさを感じさせていただけました。もつと、本腰を入れて、自分を見つめていかなければならないことも、感じました。

はい、今世のチャンスを、可能な限り活かしていきなさい、私の中から、伝わってきます。

異語。

***さん、あなたに限らず、今世、今の時間が、どれほどそれぞれにとつて大切な時間なのか、学びに集ってきた多くの人達が、まだまだ自分の心で感じていません。そうは言っても…、ただどね…、そんなことを言われても…、そういう思いが返ってくるのです。

それはそうかもしれませんが。私は、今世に照準を合わせて生まれてきました。だから、こういう結果になっています。確かに、これが私のプログラムです。そして、確かに、それぞれ

にプログラムが違っていることも分かります。だからといって、今、学びに繋がりながら、そういう返答では、これからの転生に照準を合わせていけるかどうか、ましてや、二五〇年後に照準を合わせていけるかどうかなんて疑問です。

今世、学びに繋がった、このことは重視すべき出来事です。今世、学びに繋がったことを、本当に千載一遇のチャンスとしてとらえてこそ、これからのそれぞれのプログラムが活きてくるのです。しかし、その感じ方が薄い人が案外多いです。

****さん、心を本当に見ていくかどうかは、あなたの選択です。今世のチャンスを活用してこうと決めていくのは、あなたです。

そこから、これからのあなたの肉の時間を考えてみてください。

一一一、会員番号1632さんの意識

****さん、心を語ってみてください。

間違い続けてきた私の中にも、微かではありますが、喜びが広がっています。こんなに間違

い続けてきたのに、私は、自分の今が信じられないくらいです。他力の中に苦しみ喘いできた私です。今世も、私は、たくさんの方々に心を向けてきました。我一番の世界を広げてきました。周りの者すべてを、自分の支配下に置き、私は、凄まじいエネルギーで生きてきました。そうすることが、私の幸せ、みんなの幸せになる、そうすることが良いことだと、本当に思っていました。

こんなにも間違ってきた私です。苦しくて当たり前前でした。自分が苦しくて当たり前前でした。そんな当たり前前ですが、長い、長い間、分からずに来た私でした。

もちろん、今も、まだほんの少しです。しかし、心の中に喜びが感じられます。こんなに苦しい中であつた私に、喜びが伝わってくるのです。

生まれてきてよかった、そう素直に喜んでる私が、心の中にたくさんいます。苦しい中でも、今、何とか明るいほうへ心を向けようとしているのだなあ、しみじみ、そう思います。

***さん、田池留吉を思ってください。

異語。

はい、凄まじい勢いで、田池留吉の意識に歯向かってきた私でした。私が心に広げてきた他力の数々すべてが、田池留吉の意識に向かつて歯向かっていることを、肉を通して知りました。こんなにも抵抗するエネルギーだった。真実に対して対抗しているエネルギーでした。それが私でした。我こそ神なりの思いは、自分が自分に歯向かうエネルギー、そう心で感じます。そうだった。凄まじいエネルギーを感じられることが喜びだった。苦しみではなかった、自分を感ずることが喜びでした。間違ってきた自分を感ずることが喜びでした。

***さん、ご主人に対する思いが変わってきましたか。

異語。

主人をないがしろに、踏みつけにしてきた自分の意識を感ずります。以前の私に比べると、私は、自分の中が少し和らいできたように思います。

主人に対して出してきた思いを見ていくと、それはすべて自分のエネルギーだったことを感ずるからです。もちろん、頭では知っています。相手に対して出すエネルギーを感ずっていくこと、それはすなわち自分を感ずること、そういうことは、頭では分かっています。

しかし、私は、そのことを、少し、心で感じ始めた時、本当にそうだ、こんなにすごいエネルギーが自分の中にあつた、それが私だった、そう思った時、何とも言えない思いになりました。主人の肉を見て、自分が出す心を見ていく。これが、どれだけの優しさなのか、少し心で感じ始めている私です。

異語。

***さん、心で感じていけば、今、あなたが語られた通り、私達は、どれだけの優しさの中にあるかということでしょう。

頭で分かることと、心で分かることとは、全く違います。

どんなにすごいエネルギーを感じたとしても、それが喜びだと、本当に心でどんどん思えるように、どうぞ、瞑想を続けていってください。

母を思い、ゼロ歳のあなたを思い、そんな時間をできる限り作っていってください。それでも他力の世界を崩していくことは、なかなかです。しかし、まずは、一步、着実な一步を歩み出していってください。

***さん、心を語ってみてください。

心の中を覗いてみても、私は、まだよく分かりません。自分を生んでくれた母親に対しての思いを見てきたつもりです。すごい思いが出てきます。こんな思いが出てくるのに、お母さん、生んでくれてありがとう、私は、あなたから生まれて嬉しいです、生まれてきてよかったです、こんな私に辿り着くのは、いつのことでしょうか。そのような思いが出てきます。

母の反省を第一に、母の温もりをと、答えは分かっています。ああしかし、本当に母親の反省が、そんなに大切なものなのでしょうか。すごいエネルギーを感じます。母を思う瞑想をした時、すごいエネルギーを感じます。自分の中にある本当の自分、温もりの自分、そんな私は、到底信じられない、今、そんな思いでいっぱいです。

***さん、あなたは、結果を求めています。結果を求めているんです。それがすなわち、あなたの他力の心です。あなたには、これまで、随分パワーを求めてきた転生がございま

す。あなた自身、そこまで自覚されているかどうかは、分かりませんが、あなたに思いを向けた時、パワーをくれ、この思いが響いてきます。田池留吉に心を向けるのは、パワーを自分の中に見出すためだ、自分の中にパワーをくれ、そんな思いが響いてきます。だから、あなたは、結果を求めているんです。

パワーを求めてきたあなたです。日々動く心を見る、お母さんの反省をして瞑想を続ける、こんなことをやってみたって、自分の中は変わりっこない、あなたの中は、そう言っています。しかし、やってみてください。本気になってやってみてください。自分を変えていこうと思ったから、あなたも、今世、生まれてきたことを、心で感じてごらん下さい。どれだけ自分が愚かだったか、どれだけ自分が間違ってきたか、そして、その愚かで間違ってきた自分が、どれほど愛しいか、心に響いてきます。もつとも、それは、地道なことを、淡々としていかなければ分らないでしょう。しかし、やればやるほど、心に感じるものがあるはずですよ。

異語。

***さん、田池留吉に心を向けてみてください。

凄まじい勢いで、田池留吉と思っている。訳が分からないけれど、それがとても苦しくてたまりません。田池留吉を思うことが、とても苦しいです。自分の中が爆発しそうです。田池留吉を思うことで、自分の中が爆発しそうです。そんな思いを感じます。

異語。

***さん、私は、田池留吉です。学びを続けていくかどうかは、全くあなたの自由です。あなたが決めることです。あなたの心が決めることです。

右へ行つて、あなたの心を感じるものがあれば、それをまた見ていく、左へ行つて、あなたの心を感じるものがあれば、それを見ていく、ただそれだけです。そして、そんな自分は、今、幸せかどうか心に聞いてみる、そうやって、あなたは、自分の行く先を自分で決めてください。すべてはあなたの心次第です。心を感じるものが苦しいなら、それはあなたのものです。心を感じるものが喜びなら、それもあなたのものです。あなたは、あなたの中で、あなたとともに生きていく、どれだけ時を経ても、このことは、何ら変わりはありません。

***さん、結論から言いますと、あなたの本当の思いとは、どんなに大変な現象に出会おうとも、真実を見つめていきたい、それがあなたの本当の思いです。しかし、この思いをあなたの心でしっかりと感じるには、あなたもお分かりのように、とても難しいです。まだまだそんなところではないと思います。結論から言えばこうです。

どうぞ、今のメッセージを聞いて、今のあなたの思いを語ってみてください。

はい、肉、肉で生きてきた私には、そうです、そんな私には、まだまだとてもなれません。肉が第一、肉の自分しか知らない私には、今世、出会った現象を、自分の中で、しっかりと受け止めることは、まだまだできません。これが私の今です。

どんなに心を見ようとしても、そこから私は、心を離すことができません。でも、私の本当の心を聞かせていただきました。私の本当の思いを聞かせていただきました。そうなんです、ね、これからの転生の中で、もっと、もっとすごい出来事に会って行くのだと思います。それらは、私が私に計画してきたことでした。それほど、間違ってきた中に生き続けてきた自分を、真実の方向に向けるのは大変なことだった、今、そう感じています。

まだまだ、私は、私の中では、何も始まっていないような気がします。今、自分を語らせていただいた時、私の中は、まだまだ何も始まっていない、そう感じています。

***さん、田池留吉を思ってみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉と呼ぶことを伝えていただいた。そのことだけでも、私の中には、大きな出来事だったので。こんなチャンスに、私は今、恵まれています。何はさておいても、このチャンスを活かし、少しでも、自分の中を変えていこうとすることが、私に残されたことだった。

肉の母を見て、心が上がってくる思いを、どんどん私の中で見ていき、どんなに凄まじいエネルギーを使っているか、どんどん自分の中で感じていかなければなりません。肉の母も、私も、肉を持つ時間は限られています。

甘く、甘く、とらえておりました。田池留吉、はい、私は、甘く学びをとらえておりました。

異語。

***さん、田池です。お母さんに使ってきた思いを見つめることにより、あなたは、他方の世界に沈んできた心を感じていくことになるでしょう。そのエネルギーは凄まじいです。あなたの中に鎮座する神々、その思いを、自分の中でもっとしっかりと感じていってください。生半可な思いで、あなたは生まれてきたのではない。自分の中のエネルギーを感じるにより、その凄まじいエネルギーが指し示す方向が見えてきます。それらは、本当は何を求めているのか。母の温もりが心に響いてくれば、間違いなく、それは、私、田池の指し示す方向と一致してきます。それを心で知るには、そうですね、これからの時間を大切にしていってください。

一一四、会員番号1595さんの意識

***さん、瞑想をしてこられたと思いますが、どうぞ、そのことをあなたの心で感じてみてください。

田池留吉、心の中に田池留吉を思う時、私の闇が一斉に噴き上がります。他力の神々が、私の中で一斉に齒向かっています。心を向けることに対して、まだまだ反抗をしている他力の世界を、私は、しっかりと見ておりません。

瞑想を続けていますが、私の中は、そう容易くは変わらない、そう言っている。お前の心は、それほど他力の中にある、欲と二人連れで、他力に縋ってきた、そんな心の世界が、そんなに容易く変わるはずがない、そのように、私の中が言っています。

異語。

****さん、厳しいかもしれませんが、これがあなたの現実です。

まず、現状を把握して、さて、では、そこから、いったい今の自分が自分にできることは何だろうか、真剣に自分を思ってみれば、自ずと答えは出てくるはず。学びの時間が長いあなたにとって、簡単に答えは出てきます。その答えに従って、淡々とやるだけです。

そうすれば、肉のあなたが前面に出ていることが、あなたの心で感じてくるでしょう。そのあなたを引っ込めていけば、あなたの心にもどんだん響いてきます。あなたは、肉ではない

からです。

異語。

***さん、肉を持っていなければ学ぶことはできないけれど、肉を持ったがゆえに、心で知ることの難しさがあります。それが、他力の世界の根深さです。あなたの中にも他力の世界の奥深い暗闇が、しっかりとあります。その思いが、あなたの行く手を阻んでいます。もちろん、このことも、あなたの心に響いてこなければ、本当のところ、よく分からないと思います。他力の世界の根深さ、ちよつとやそつとでは、この世界を崩していくことは、本当に困難なんです。

だから、焦らずにじっくりと、です。あなたが今できることは、母の反省すなわち母に向ける瞑想、そして、田池留吉を思う瞑想です。

肉でとらえて、何の進展もないと感じ、このまま続けていつていいのだろうかと思う人も多いかもしれませんが、それが肉、肉だということが、なぜ分からないのでしょうか。

***さん、あなたもそのうちのお一人ではないでしょうか。

他力の心をそのままにして、真実の波動の世界は絶対に分からない、私、田池のメッセー

ジです。そしてまた、母の反省と他力の反省、これは車の両輪だとも伝えておきます。

一一五、会員番号1581さんの意識

***さん、あなたの心を語ってみてください。

自分が分からなくなっています。心がどこに向いているのか、私も、今、それがはつきり分かりません。田池留吉、そしてアルバート、この方向にきちんと自分の思いを向けていきたい、向けていこうとする肉の私があります。

しかし、一方で、私の中はそう簡単にはいきません。本当に心の中の他力のエネルギーは、凄まじい勢いで自分を押し留めていることを感じます。本当の私に帰りたいという思いを、これほどのエネルギーに変えてしまったのか、自分の過去からの歩みの間違いの深さに、心で気付いていない私があります。

他力の心、他力のエネルギー、それは凄まじく根深くて、今、その方向に、心を向けた時、はるか、はるか彼方から、ずっと間違い続けてきたことを、微かに感じます。気の遠くなるよ

うな時間の中で積み上げてきた心の世界、今、私は、そのことをあなたの心で感じていってください、あなたの心を語ってみてくださいと、促されています。

深く、深く、沈んできた他力の世界、そのような中から、私は、今世、ひとつの肉体をいただきました。

異語。

***さん、今、あなたが微かに感じられた思い、深く、深く、沈んできたその中から、今の肉体をいただいたという思い、しっかりと瞑想を続けていく中で、その思いに触れていただく。

ひとつの肉体をいただいた、だから、今、自分自身を語る事ができる現実があります。そのことに、少しでも触れて、あなたの今世を終えていただきたい、私は、そのように思います。

異語。

***さん、田池留吉を呼んでみてください。

田池留吉、田池留吉、素直に幼子の心で、田池留吉と呼んでいた私があったことを、信じていきます。お母さんと素直に呼んでいた私があったことを、信じていきます。私には、それだけが唯一の手がかりです。

お母さん、ただお母さんと素直にお母さんの思いを心に感じていた頃の私が、私にとって唯一の拠り所です。この思いを心にしつかりと育てていくために、今までがあったんですね。

田池留吉、心から田池留吉を呼ぶ幸せを、今、少し感じます。私は、間違ってきました。

異語。

***さん、もう一度、いっしょに、田池留吉のほうに心に向けてみてください。

田池留吉、はい、心を感じた思いを大切にしていきたいと思います。私は、私をバカにしてきました。私は、私を軽くあしらってきました。私は、私を上に見てきました。そのどれもがみんな間違っていました。心の中の思いを、肉は、ただただ受け止めるだけでよかったです。肉の役目はそうでした。私の中の思いを、ただ受け止めるだけでよかったです。

田池留吉に心向けなさいと言われたら、何も考えずに、田池留吉を思えばよかった。今、心を感じる思いは、母の思いです。私に優しさを伝えてくれた、私に幸せな自分と出会ってくださいと言ってくれた母の思いに、今、触れさせていただいています。

肉の私が、愚かなだけでした。肉がすべてを遮っておりました。心は、思えば通じる世界にあった、今、それを体験させていただいています。

一一六、会員番号1617さんの意識

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

心の中を覗く時、無性に寂しい私を感じます。無性に空しい思いを感じます。肉で忙しくしているから、私は、その思いを、しっかりと自分の中で確認していかないけれど、私の中は、無性に寂しくて、無性に空しい。だから、肉で忙しくしているのかもしれない。自分から逃げずに、といっても、私は、気が付けば、肉の忙しさの中で、身体が疲れて、結局は、上辺だけの思いを見ることに留まっているような毎日です。

私の中は、求めています。どれだけの思いで、今の環境を選んできたか、自分の心を見るために、私は、この環境を選んできたし、私は、その中で、しっかりと自分を見つめていく計画でした。

しかし、その計画は、まだまだその通りに進んでいるとは言い難いです。

自分を見つめるために、色々な設定をしてきたけれど、その設定をしてきたことに、私の思いは分散されて、なかなか自分の中の思いを集中していくことはできていません。心を語ることに、思いを語ることに、そのことについて、私は私に充分なことをしてあげていないことを感じます。

私が、今一番、心で望んでいることは、ゆったりとした時間の中で、ゆったりと自分を見つめていくことです。

しかし、その一方で、私の中に、それを遮る私があります。徹底的に自分に反抗してきた他力の世界です。

***さん、ご自身が語られたように、ゆったりとした時間を持つてください。肉が忙しくても、心を見ることはしていると、あなたはおっしゃるかもしれませんが、少し、足を止めて、自分をゆったりと振り返る、そんな時間の大切さを、知ってください。

ゆったりと瞑想をする中で、自分の思いが心に響いてきます。あなたが今、肉体を持ってそこにある時間を大切にしていってください。あなたは、あなたを見つめたいから生まれてきたことを、自分の中で思い起こしてください。

異語。

***さん、田池留吉を思ってみてください。

田池留吉、お母さん。はい、大切な時間をいただいています。田池留吉、心に田池留吉と呼ぶ時、自分に対して申し訳ない思いが湧いて出てきます。自分を変えていくことは、そんなに容易いことではありませんでした。生まれてきたことが、どれだけすごいことなのか、どれだけの思いを持って、私は、生まれてきたのか、そして、この学びに出会ったのか、田池留吉を思う時、その万分の一も分かっていることを感じます。自分に対して申し訳ない思いを感じます。

異語。

一一七、会員番号1356さんの意識

****さん、心を田池留吉に向けて、あなたの思いを語ってみてください。

田池留吉に心に向けた時、私の世界を、私が作ってきた世界を感じます。真実の方向ではなく、肉を本物としてきた他力の世界に、自分の幸せと喜びを求めてきたことを心に感じます。形に生きてきた私です。どうしてもその形の世界の中で、自分の喜びと幸せを求め、そこで幸せな自分、喜びの自分に到達することが私の思いでした。そんな他力の世界にずっと心に向けてきたことを、私の中が伝えてくれます。田池留吉に思いを向けて心を語る時、そのことを語らずにはいられません。

その世界を自分の中で、しっかりと見ていきなさい、見ていかなければならない、見ていかなければ、私の心は、正しい方向に向けることなどできない、中がそのように伝えてきます。

****さん、あなたの中は正直です。意識は正直なんです。波動の世界は正直です。あ

なたの心は、そのように語っています。おそらく、肉のあなたは、この学びを幾分やっていると思っただけでしょうが、とても、そんなところではありません。あなたの中に思いを向けた時、私の心を感じるものを、そのまま言葉で表現すれば、中は、そんなところではないということになります。これをホームページで見ても、あなたの心がどのよう動いていくのか、それは、またあなたの勉強です。

ただ、あなたは、あなたの心を、しっかりと見ていくことをするだけです。

おそらく、あなたは、そうされるでしょう。あなたの中は求めているからです。それは、私の心に伝わってきます。

出てくる思いにしっかりと心に向けて、自分を語ることをして行ってください。

異語。

*****さん、田池です。お母さんに使ってきた思いに、心に向ける瞑想を続けていってください。あなたの中の凄まじいエネルギーを感じるでしょう。母に向けてきたエネルギーは凄まじいです。

真実の方向に行くためには、そのエネルギーを、自分の中で確認して、そして、受け止め

ていかなければなりません。そのことを、あなたの中で感じていくことから、まず始めていただきます。

一一八、会員番号1243さんの意識

***さん、あなたの心を語ってみてください。

忙しい毎日です。私の心は、まだまだ肉の中にありますが、それでも、日々瞑想を続けています。たくさんのお気付きがあります。私の周りから、たくさんのお気付きを受け取ります。あとは、それを、自分の中で、どのように伝えていくかです。自分の思いを素直に聞いて、ああそうだ、これは私の思いだった、そんな素直な私が、どれだけ自分を救っていくのか、私は、今、そう思います。

素直が一番でした。どれだけ自分をそびえ立たそうとも、素直な自分でなければ、私は、何も変わらないことを感じます。

自分をそびえ立たせることが、私の喜びではありませんでした。私の幸せになることなど

なかつたんです。それよりも、自分に素直になって、どんな自分でも、受け止めていける優しい私を信じていくことができる、これが私の喜びでした。

とは言っても、まだまだ肉がとても強いです。肉の繋がりを、やはり私は、自分の中心に置いていきます。自分と自分の中で、ただ自分の思いを見ていく、その厳しさというか、真つ直ぐな一直線な思いには、まだまだなれません。どこかに、私を引っ張る私があります。それが肉の思いだと感じていきます。

異語。

***さん、焦らずにゆっくりでいいんです。どうぞ、瞑想を続けていってください。瞑想の中で、あなたは、あなたを思い、あなたを生んでくれたお母さんを思い、そして、これから転生をしていくあなたを思ってください。

本当の自分に帰りたい、そう叫んできたあなたの心を、これから、色々な場面で感じていくだろう転生が待っています。今のあなたの環境から、自分の心を見て、心の中に作ってきた間違った思いを見つめ、そして、それらの思いとともに、あなたの転生を思ってください。

異語。

私は、今世、ひとつの肉体を持ちました。そして、これからも肉体を持ち、私は私の中を見つめてまいります。心の中の真実の世界へ、私は私自身を導いていきます。

「たくさんの過去とともに、未来へ歩いていく私を思ってください。

未来の私を思う時、今の時間、本当に自分のために生きていこう、あなたの心に、そうあなたが語ってくるはずです。

私達は、待っています。今のあなたが未来の私達、過去のあなたが未来の私達、ともに歩いていくことを待っています。」

一一九、会員番号1274さんの意識

***さん、あなたの心を語ってみてください。

田池留吉にずっと、ずっと反抗をしてきました。これでもか、これでもかと、私の中は、田

池留吉を目掛けて、凄まじい勢いで反抗をしてきました。こんなに私の中が、必死に訴えていたのに、私は、この肉を前面に出してきました。それが、私の一番大きな過ちでした。肉を前面に出しながら、田池留吉のほうに心を向けることなど、全く不可能でした。そのことを、ようやく、私は、自分の心で感じ始めてきています。

自分の中が定まっているようで定まっていなかったです。それを認めます。私は、自分を誇ってまいりました。肉というものを誇ってきました。田池留吉は、私の肉を認めなかった。この学び一筋と言いながら、決してそうではありませんでした。心が定まっておりました。田池留吉に反抗する思いがこんなにもあるのに、私は、その思いに蓋をして、いかにもこの学びをやっていますという風を装ってきました。

私の中は、そんな肉の私に対して、どこか冷ややかな思いで見つめている。「もっとしっかりと心を見つめる。もっと自分をみつめる。素直になつて、ありのままの自分を見つめる。中途半端に学びをするな。」

私の中で、狂った間違った意識達が叫んでいます。私の叫びでした。あれは、私が私に対して伝えてくれていたメッセージでした。

異語。

***さん、ゼロ歳の時に戻ったあなたの思いを、思い出してください。そして、その思いを、ずうつと心に広げてみてください。それから、その中で、田池留吉を思ってみてください。

異語。

田池留吉、私にずっと、ずっと真実の方向を指し示してくれていました。今、あなたに思いを向けた時、何とも言えない優しさを感じます。

田池留吉、あなたを私は、やはり肉で見えて、肉で感じていました。

心の中であなたを見ていたつもりですが、私は、肉の目であなたを見ていた、今そのことを感じます。田池留吉のほうに心を向けるとは、こういう感覚でした。

はるか、はるか彼方から、私はあなたを目指してやってきた意識です。

ああ、田池留吉。はい、私の中の宇宙に、はい、そこに、もつと、もつと心を向け、思いを向け、あなたの中で感じていってください、このようなメッセージをいただきました。

異語。

***さん、お母さんの反省を続けてきたとのこと、どうぞ、温もりに対し、徹底的に歯向かってきたあなたの思いを、どんどん心で感じ、そして、その中で感じる揺るぎない母の思いを信じ、宇宙へ心に向けていってください。

しかし、その過程で、肉の***を表そうとすれば、たちまち、心の針が狂っていきます。あなたは、まだまだそのような状態です。心がビシツとしないのは、その狭間にあるからです。あなたが、安定飛行をするためには、ただただ母を思う瞑想を続けることが必要です。どれだけの凄まじいエネルギーを心に蓄えてきたか、じっくり自分と向き合い、そして、それでも、そんな自分を包んでいこうと、自分に限りない優しさを注いでいけるまで、自己を確立していってください。生半可な思いでは、到底歩いていけない道、それがアルバートへの道です。

一一〇、会員番号1456さんの意識

***さん、心を語ってみてください。

私は、私を認めてほしかった。この思いが強かったです。この私を認めろ、そうやって、私は、田池留吉に向かっていきましました。頭では分かっています。肉の私など、どうでもいいことなど分かっています。しかし、心の中から出てくる思いは、私を認めろ、この思いだけです。

母に使ってきた思いを、ずっと見てきました。どれだけ己が偉かったか、母の言動から、私は私を見てきました。心の中は、とても苦しかったです。自分を正当化してきた私は、自分の心の苦しさを分かりつつ、どうしても、それを認めることができなかつた。受け入れることができなかつた。

認めよう、受け入れよう、肉で努力してきました。しかし、実際は、そんな自分自身を、ずっと突っぱねていたように思います。

****さん、あなたは、田池留吉を信じていますか。

異語。

私は、田池留吉を信じようとしています。しかし、これは、信じていますかの答えには、な

っていないですね。信じようとしているけれど、信じていない、それが私の答えです。

田池留吉を信じようとしているけれども、今現在は信じていない。そうですね、あなたの答えは、そうだと思います。

田池留吉を信じていないあなたが、何をどう語ろうとも、すべては肉基準です。肉の基準で、色々とおあなたの思いを聞いてみても、もう答えは分かっていると思います。長い間学んでこられたあなたです。知識は十二分にあると思います。どうぞ、しっかりと瞑想を続けていってください。

先ほど、あなたの中から、私を認めろという思いを、強烈に感じました。あなたの心は、そう語っていました。その思いを、しっかりと見ていってください。自分を認めさせる思いが、とても強いです。その思いを、少し緩めていくというか、弱めていくだけでも、あなたにとって、今世、大きな一歩になるのではないのでしょうか。ただ、そう容易く変わらないということは、あなたの学びの年月からしても、お分かりでしょう。

どうぞ、しっかりと瞑想を続けていく中で、本当の優しさに出会っていってください。母の意識があなたに伝えてくれた思いの深さに、出会っていってください。

一一一、会員番号1791さんの意識

***さん、すでにこのコーナーで、あなたに尋ねていることがあります。どうぞ、それを参考にして、自分の中を見ていってください。

肉にとらわれていれば、苦しいのは当たり前、その苦しさをどうにかするのは、自分です。間違ってきたから苦しい、苦しいから生まれてきた、そんな自分を、しっかりと確認していただく。

一二二、会員番号1300さんの意識

***さん、心を語ってみてください。

何のために生まれてきたのかを、自分に問い続けています。今世、セミナーに集えてよか

ったです。自分の間違い、心の中の間違いを見させてくれるこの機会を得ました。他力の思いを心に掲げながら、私は、ずっと転生をしてきた者でございます。神を求めてきました。宇宙のパワーを求めてきました。何度も、何度も転生を繰り返してきました。たくさんの過去世達ですが、私の中で叫びます。間違ってきた、間違ってきた、どうして、自分は肉という形を持つてくるのか、その思いに、今世、私は、ようやく応えていけるような、そんな今です。

ああしかし、私の中には、まだまだたくさんの暗闇があります。母に使ってきた思いを見ているが、母に対して、私の心の奥深くに、まだまだすごいエネルギーを抱えています。母の意識に対して、まだまだ、私は自分を崩していない部分を感じます。

それは、田池留吉に対してもそうです。だからこそ、これからの転生があるのだと思います。自分の心の奥深くに進んでいくこと、私は、そう、これからの転生の中において、そのような計画を立てています。

どんなに苦しい転生だったか、今、心の中が一斉に叫んでいます。

その心の叫びが、これからの転生を計画していくのだと感じています。

異語。

***さん、田池留吉のほうに心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、心の中で呼ぶ田池留吉の世界、まだまだ小さいです。ああでも、今世、この世界を心で少し感じた。これだけでも、大きな出来事です。

心の中を覗く時、田池留吉の思いを私は、感じます。しかし、その思いをまだしっかりと受け止めることができない状態が、今の私です。

田池留吉、心を合わせてまいります。

異語。

一一三、会員番号1504さんの意識

***さん、思いを語ってみてください。

自分の中に溜め込んできたエネルギーを、心の中で知っていくには、私は、まだまだ時間が必要だと思います。これからの時間を大切にしていきたいと思っと思っています。自分が溜め込んできたエネルギーに、私は、しっかりと蓋をしています。まだがっちり私の中に固まった状態です。そんな心の中にある塊を、少しでも緩めていこうと、私は、今の時間をいただいています。私も、苦しい中を生き続けてきた、そんなことを感じます。思いを語ることの優しさを、もつと自分の心で感じていきたい、今、そのように思います。

***さん、田池留吉を心に呼んでみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉。心で呼ぶ難しさを感じます。ですが、素直に田池留吉と、お母さんと、心で呼ぶ私があったことを信じていきたいです。素直にお母さんと呼んでいた頃の私に戻っていききたい。私の中は、そう言っています。

異語。

***さん、そうですね。心をもっと語っていつててください。思いをもっと語っていつててください。ゼロ歳の時のあなたに戻り、お母さんに抱かれていた頃のあなたに戻り、その頃のあなたを思い出して、自分を語っていつててください。

心の中に語りたいたい思いがあるはずです。お母さんに甘えたい思いがあるはずです。お母さんつて、ただただ呼んでみたかったあなたの思いがあるはずです。そこから始めていつててください。お母さんつて、素直に呼べたなら、あなたの中は、少しずつ語り始めます。

お母さん、こんなに苦しかった。お母さん、こんなに寂しかった。本当に寂しかった。お母さん、私は寂しかった。いつもお母さんに側にいてほしかった。

そんなところから、あなたの心を語ってみてください。そうしていけば、なぜ、あなたは、他力へと走っていつたのか、心で感じていくはずです。心を閉ざしていることが、苦しかったポツンと、あなたがそう呟けば、あちらからも、こちらからも、その思いに賛同してくるでしょう。

どうぞ、ゆつたりとした時間を作っていつててください。自分が用意した時間を大切にしていっててください。

一二四、会員番号1185さんの意識

***さん、あなたの心を語ってみてください。

他力の神々を心に抱えています。その反省がまだまだ進んでいません。他力の神々に心に向けてきた時の私の思い、欲の思いを、しっかりと心で見えていない私です。だから、ずっと田池留吉に、齒向かってきました。

生まれてきたことも喜ばずにいた私です。心の底から、お母さん、ありがとう、生んでくれてありがとう、正直言つて、まだその思いは、自分の中に響いてきません。ただ、そんな私ですが、肉の母を、今思う時、ふっと、お母さん、そう呼びたくなります。

他力の中に沈んでいる私なのに、こうやって、お母さんって呼べる時があった、そう思うことが、今少し嬉しいと感じています。

***さん、あなた自身語られたように、他力の中にすっぽりと収まっている今のあなたです。どうぞ、心を見ていってください。といつても、他力の神々に向けてきた思いは強く、

それを崩していくのは、とても難しいです。その難しいということを、あなたの心で感じていただく。あなたは、田池留吉を思う瞑想を、日々、継続していますか。

異語。

はい、田池留吉を思う瞑想、継続しているとは言えません。田池留吉と思う時、心の中にざわめきが起こります。田池先生を思い、瞑想をする時、ふっと優しい思いを感じる時もあります。だけど、田池留吉と呼んでそちらのほうに心を向けようとする時、私の中にざわめきが起こります。これが私の他力の世界なんですね。他力の中で苦しんできた私のたくさんの意識、それが心の中で蠢いているんですね。

異語。

***さん、どうぞ、あなたの中の切なる思いに、心を向けていってください。私もあなたも、地獄の奥底で苦しみ喘いできた意識です。暗闇に沈み込んできたたくさんの過去世とともに、今世、ひとつの肉体を持たせていただきました。私もあなたも同じです。

ですが、私は、自分の中の切なる思いを聞き、その思いを自分の中で受け止めてきました。あなたには、あなたの計画があります。その中で、自分の思いを受け止めていくことが、大変重要なことです。

心に切なる思いが響いてくれば、間違った道を歩き続けてきた自分を、必死で見えていくはず。今世、少しでも、その思いに触れていってください。そんな時間を、できる限り持つていってください。

一二五、会員番号1655さんの意識

***さん、あなたの心を語ってみてください。

はい、心を見ようと私なりに一生懸命にやっていますが、自分の中の他力の世界を見ていることは、難しいと感じています。

心に蓄えてきた思い、エネルギー、それが大きな壁となって、大きな塊となって、私の中にしっかりとあります。その塊をどうにかしなければならぬことも、感じています。

ああでも、気の遠くなるような思いを感じます。この壁は私が、作ってきた壁なんですね。これほど、私は、自分を自分から遠ざけてしまったんです。

***さん、あなたが感じているように、自分の中に作ってきた壁というか塊は、確かにその存在感を誇っています。

そして、あなたが生活をしている地の神々に、心が、がちりと通じています。そんなあなたが、よく、この学びに繋がりました。そのことを、まずは、喜んでいってください。

この学びに繋がったということ、この学びを通して、自分の心を見ることを知ったこと、それは、おそらく、あなたのこれまでの歴史の中で、すごいことなのだと思います。

気の遠くなるようだとはあなたは感じておられますが、それでも、日々、淡々と瞑想をして、心を田池留吉に向ける、合わせる、それをやっていくしかないのです。

どうぞ、あなたの心を、田池留吉のほうに向けてみてください。

異語。

田池留吉の世界に足を踏み入れること、心に向けることを、阻止する私を感じます。お母

さん、お母さんの心を捨てた私達です。

そんな私達に、待っていますと言ってくれています。

田池留吉、待っていますと伝えてくれる意識を、微かに感じます。

一二六、会員番号11118さんの意識

***さん、思いを語ってみてください。

お母さんに生んでいただいたことを改めて思っています。

苦しい中から、私を生んでくださいという思いを聞き入れてくれた母の意識を、これまでに、何度も何度も感じながら、私は、転生を繰り返してきたことを、思っています。

私は、今世、こんなことを思うとは、考えもしませんでした。

この学びに出会ったからこそ、己の偉さを知りました。それまでの私は、どこまでも、どこまでも、己をそびえ立たせていたのです。

それが、今世、このように、肉体をいただき、そして、学びに繋がって、私は、自分を見

つめる時間をいただきました。

自分を見つめていけばいくほど、すごいエネルギーを感じますが、それでも、今、このように、肉を持っているから、私は、そのことを感じられるのです。そう、しみじみ思います。

異語。

***さん、心に、田池留吉をそしてアルバートを呼んでみてください。

田池留吉、アルバート。何ともすごいです。心に田池留吉、アルバートを呼べる今、自分の意識の世界が、田池留吉、アルバートの世界と合うとかそういうのではなく、ただ呼べるということが、私には、大きな喜びです。これが、本当に少しずつでも、合わすことができるようになれば、どんなにこの心の中に、衝撃が走るだろうか、そう思います。

田池留吉、アルバート。心でしっかりと呼んでいきたい、心しっかりと呼んでみたい、私の中にあるたくさんの私が、そう応えています。

異語。

****さん、異語でどんなあなたの思いを語っていつてください。異語で、どうぞ、ともにも語っていつてください。

異語…。

****の意識が語ります。

心をもっと、もっと見つめていつてください。田池留吉、アルバートを思い、そのほうに心を向けていつてください。

待っています。心の中の私達に、どうぞ、あなたの思いを向けてください。心に感じた思いを、私達に伝えてください。

私達は、UFO。あなたの心から、私達を受け入れてくれる思いが流れるのを待っています。UFOの存在を恐怖しないでください。私達は、あなたに受け入れてもらえるのを待っています。

どうぞ、母の反省をして、母の意識に思いを向け、その思いで、私達UFOを受け入れてください。

一一七、会員番号1501さんの意識

***さん、心を語ってみてください。

心の中の思いを語ることをしてこなかった私に、心を語りなさい、そう伝えてくれています。苦しかった私でした。お母さん、苦しかったです。こんなにも苦しかったのか、母の反省をしていく時に、私を出す思い、出すエネルギーを感じます。

苦しいだけでした。苦しい中に私はあった。そう、そんな苦しい私を、母は、母の意識は、受け入れてくれたのですね。

どうしても、どうしても、私は、生まれてきたかったのですね。

苦しい、苦しい、苦しいと、私の中が、叫び続けてきた、この心を感じていってください、そんな優しい思いを、今、感じさせていただいています。

異語。

***さん、田池留吉を思ってみてください。

田池留吉、はい、田池留吉に対して、大きな、大きな間違いを繰り返してきました。我こそ素晴らしい世界にある、そんな思いを、ずっと、ずっと、田池留吉に向け、流し続けてきた私の中の他力の世界でした。

田池留吉を思う時、その他力の世界が、私の中に、まだまだしっかりと鎮座していることを感じます。

それでもなお、私の心を語りなさい、と言ってくれた優しい中であつたんですね。他力に使ってきた心を見てまいります。田池留吉、その心を見てまいります。

異語。

一二八、会員番号1131さんの意識

***さん、田池留吉を思ってみてください。

私は、***の意識でございます。

田池留吉、はい、心の中に田池留吉を思います。

お母さん、私は、あなたからこの肉をいただきました。肉がすべてだと思ってきた私の中を見ていくために、あなたから肉体をいただきました。

しかし、今世も、その思いを忘れ、この肉にとらわれてきました。

今、田池留吉を思う時、心の中に、ああ私は自分を忘れ去ってきた、ああそんな中から、生まれてきたんだ。私の中には、苦しい、苦しい意識が、たくさんあることを感じます。田池留吉に向かつて、その苦しさを叫んでいるのを感じます。

この心を知っていくために、私は、生まれてきました。

申し訳ございません。お母さん、申し訳ございません。

己を表すことに喜びを感じてきた私の思いを、しっかりと見てまいります。そのように誓ってきました。

なぜ、私は、今世、学びに繋がったのか、ああこの苦しい自分を感じる時、それは、納得、納得です。

田池留吉、あなたと出会いたかった。この思いを感じます。

異語。

***さん、あなたの中は叫んでいます。その思いを、しっかりと自分で受け止めていてください。

あなたは、何も特別ではありません。ただただ、自分の苦しさを受け止めたいがために、生まれてきた意識、ただそれだけです。

こう言えば、お分かりでしょうか。あなたの中には、自分が特別だという思いが、しっかりとあるんです。その思いを感じます。

どうぞ、苦しい自分を優しい目で見つめていてください。優しい思いで受け止めていてください。

一二九、会員番号1354さんの意識

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

田池留吉に心を合わそうとしています。しかし、私の中に、その思いと反対の方向に心に向けよ、そう言ってくる意識があることを感じます。

他力の世界です。他力の反省をしてきたつもりです。ですが、私の心は、まだまだそのエネルギーをしつかりとつかんでいます。

他力の延長線上にこの学びをとらえている、田池留吉をとらえている、厳しいけれど、これが私の現実なんです。

私は、それを、今自分で語ることによって、はつきりとさせたかったんです。母親の反省も他力の反省も、まだまだ中途半端です。

もちろん、長く学んできましたから、心に感じることは、たくさんございます。しかし、その根本はと言えば、私の根本は、あまり変わってはいない。私は、それを、自分ではつきりとさせて、今世のこの肉のある時間を、それならばそれで、しっかりと使ってやっていこうと思っ
ています。

なぜならば、やはり、本当の自分に帰っていかうとする思いが、私にもあるからです。そんな自分を信じていこうとしています。だからこそ、私は、私に厳しい自分の現実を突きつけて、そこから、そんな私ができることからやってみよう、今、そのように思っています。

***さん、田池留吉を思ってみてください。あなたがゼロ歳の時、お母さんを見ていたようなそんなあなたに戻って、田池留吉を思ってみてください。

異語。

はい、ゼロ歳の私の中に、何もありませんでした。何もありませんでした。ただ安らいでいた。安らぎの中にあつた。そんな自分だつたと思います。田池留吉を思うことに何の思いもない、そうなつていくんですね。

ただ田池留吉を思うことが、こんなにも難しいものだつた。他力のエネルギーを求め続けてきた私は、そう感じています。

その心では、田池留吉の世界には、通じないんですね。

他力のエネルギーを自分の中に蓄えてきたことを、反省してまいります。

***さん、このコーナーで、私は、アマテラスに一体化しているあなたの意識と、それを自分の中で包んでいく自己供養のことを書きました。

今、ご自分の身体が不調であつて、どこかの病院で診察をしてもらおうと思つてゐるならば、そうしてください。

それは、他力でも何でもありません。病院にも行かず、ただ心を見ていくんだ、それは、少し違ふと私は思います。

しかし、病院に頼り、薬に頼るばかりではダメです。

田池留吉を思う時間が少なくなつたとか、母親の反省をしても、温もりに出会えないとか、あなたが綴つた短い文章の中にさえ、あなたの心を見ていく材料は、いっぱいあります。

とにかく、あなたの課題は、アマテラスであり、苦しい自分を放置してきた自分の冷たさだと私は思います。

***さん、あなたは、何のために生まれてきたのでしょうか。

何のために生まれてきたのかを、心に問いかけていけば、この学びとは、まったく違う答えが返ってきます。

心の中を見ること、私自身の修正のために生まれてきた、私の頭の中には、その答えが入っています。しかし、私は、それを全く信じていません。

そのために、自分がお母さんから肉をいただき、必死で生まれてきたそんな自分を信じられないのです。

何のために生まれてきたのか、私は、自分に、はつきりと言うことができませぬ。

頭とは違うんですね。自分の心の中、意識の世界は、私の頭とは違います。

異語。

***さん、母親の反省と他力の反省、どの程度やってこられたか、今のあなたの答え

で分かります。母親の反省と他力の反省、それをしっかりとやっていけば、当然自分が生まれてきたことが、どんなにすごいことであり、大変なことなのか、そして、どれだけの喜びであるのか、心に響いてきてははずです。

そんなあなたの心を感じていけば、自分が何をすべきなのか、自ずと答えは出てきます。

しかし、母親の反省も他力の反省も、はかばかしくない状態であれば、どんなにこの学びに集い、つまりお金を使い時間を使い、身体を使っても、ほとんどその結果は得られない、はつきりしているんです。

何らかの結果を得ることを目的として、学んでいくのは、本道からズレていますが、きちんとした手順を踏んで学んでいけば、必ず、結果は出る、これもまたはつきりとしています。

何を学んできたのか、もっと、自分を大切にしていくください。

お金もあって、時間もあって、そして、自分を見る材料はふんだんにある今のあなたに、いったい何が不満なのでしょう。

恵まれているあなたの環境を活かせないのは、大変もつたいないと思います。頭が良過ぎて、かえってそれが、この学びをしていく手かせ足かせとなっているのかもしれない。

***さん、あなたの思いを聞かせてください。

心に培ってきたエネルギーを感じています。しかし、次から次に出てくる凄まじいエネルギーです。いったい、私の中にはどれだけのエネルギーが蓄積されているのかと思うくらいに、どんどんどん出てきます。

そのエネルギーを感じるたびに、自分の冷たさを感じます。

これでもか、これでもかと、私に迫ってくるのに、私は、その私を優しく受け入れる思いに欠けている、優しさに欠けていると思います。自分に冷たい自分を感じます。

エネルギーを感じれば感じるほど、喜びを感じるよりも、自分の中の冷たさ、そびえ立ち、そういうものを感じてしまいます。

***さん、あなたは、この学びに対する動機を、本当に見てきましたか。

異語。

田池留吉、アルバートにパワーを求めてきた私があります。はいそうです。私は、パワーを求めてまいりました。心の中に、宇宙に君臨するパワーを求めてきた者でございます。

その思いを、自分の中で見つめてきたと、私は、思っています。ああしかし、心は、やはりパワーを求めている。パワーは、己を表すために求めてきた、そんな心癖を、私は、まだまだ修正しておりません。

動機が間違っていることは、以前より感じておりました。今、改めて、思いを向けた時、完全に、私の心は、パワーを欲している。素晴らしい自分のために、素晴らしい世界を掲げるために、パワーが欲しかった。その思いは、私の中で、まだまだしつかりとあることを感じます。

異語。

***さん、優しいあなたに触れていってください。限りなく優しい、そう限りなく優しいあなたです。そのあなたに触れていってください。

母の意識に対して、どこまでも抵抗していく、歯向かっていくあなたの心の中を、もっと、しつかりと見つめていってください。

母の意識は、ただただ、あなたを受け入れてくれています。

そのことを、本当に心で分かるようなあなたになっけていってください。

時間がかかると思いますが、どうしようもなく愚かな自分と出会っていったならば、どうしようもない自分だからこそ、肉を持ってここにあることが、無上に嬉しくなっけてきます。

学びに集えたことが千載一遇のチャンスだったこと、そして、それしか自分は望んでいなかったこと、それらが、心に響いてくれば、宇宙に向ける本当の喜びが分かってきます。そうすれば、自分がとらえてきた宇宙は、小さかったことが、分かってくると思っています。

あなたの意識です 第2巻

2010年10月30日 第1版第1刷発行

編集 / 発行 U T A会

印刷 / 製本 モリモト印刷株式会社

落丁本・乱丁本はお取り替えいたします。

© 2010 Printed in Japan